

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国語	学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	文学国語	担当者	比企 絢子		
使用教材	文学国語(東京書籍)				
	セレクト漢字検定(桐原書店)、カラー版新国語便覧(第一学習社)				
学習目標	1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。				
	2 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。				
	3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学習方法	1 本文を声に出してスムーズに読めるように練習する。筆者が文章によって何を伝えようとしているかを的確に捉えられるように、要約に取り組む。分からない語句は自分で調べる習慣を付ける。				
	2 板書は正確・丁寧に写し、板書事項以外にも大切な点はノートに書き留めるようにする。自分なりの意見を持ち、それを条件(時間や時数)に合わせて発表したり、文章にまとめたりする。				
	3 漢字や語彙の小テストを頻繁に行うので、日頃から漢字の読み書きの練習や語彙問題の練習に取り組むこと。その際には、見間違いや書き間違いのないように丁寧に練習すること。				
必ず取り組む最小目標	・要約やレポートなどの課題を提出する。 ・漢字の小テストで合格点(8割)がとれるように勉強する。。				
実現したいと思う最大目標	・本文を執筆した筆者の主張やテーマを的確に捉えるとともに、自分の身近なことに思い換えながら、自分なりの意見や考えを持つ。				
評価の方法及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・提出された課題の内容	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させている。	
	B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしている。	
C	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けていない。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしていない。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしていない。		

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	○随筆「雨月物語」 木内昇	・筆者の主張とその根拠となる経験とを区別しながら意識的に読む。 ・本文を読み解くキーワードである「侘びしい」という言葉の意味に込めた筆者の思いを理解し、発表し合う。	○	○	○
	4					
	5					
5	1	○漢字を学ぶ	・山月記の学習の前に、漢字についての知識を深め、使いこなす技能を高める。	○		
	2					
	3					
	4					
6	1					
	2	(前期中間考查)セレクト漢字検定p70～73、110、111,192～195				
	3	○小説「山月記」 中島敦 ○作者に関わる文学史	・特徴のある漢文調の文体を意識しながら鑑賞する。 ・主人公の李徴が虎となった理由を理解するとともに、作品の主題を探る。		○	○
	4					
7	5					
	1		・中島敦の生い立ちや他の作品について理解を深める。	○		
	2	(学校祭)				
	3	○平和学習①	・ドキュメンタリー番組「玉砕の島を生きて」を視聴し、戦争の実態の一面を知るとともに、戦争とは何であるかを、自分なりに定義して文や文章にまとめる。		○	○
4						
8	5					
	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
9	4	○平和学習②	・教科書の小説「沖縄の手記から」(田宮虎彦)を鑑賞し、唯一の地上戦・沖縄戦の現状を知るとともに、登場人物の信条や内面の葛藤を読み取る。		○	○
	5					
	2	(前期期末考查)セレクト漢字検定p116～125				
	3	○平和学習③	・大岡昇平の同名小説を映画化した「野火」を鑑賞し、作者が体験した戦争の現実を理解する。 ・作品を通して大岡昇平が伝えたかった戦争の恐ろしさとは何かを読み取る。 ・大岡昇平の生い立ちや文学作品を理解する。	○	○	○
4						
10	5					
	1	○平和学習④	・横山秀夫の同名小説を映画化した「出口のない海」を鑑賞する。 ・太平洋戦争の歴史と戦争文学に関する知識を身に付ける。	◎		○
	2					
	3	見学旅行				
11	4					
	1	○平和学習⑤	・これまでの平和学習を通じて身に付けた知識や価値観を下に、「平和」と「戦争」とは何か、また、戦争を起こさないために自分ができることを考え、文章にまとめるとともに発表する。		○	◎
	2					
	3	(後期中間考查) ※「文学国語」の考查は実施せず。				
12	4	○評論「言葉を生きる」 若松英輔 ○宮沢賢治に関する文学史	・哲学者である筆者の主張を読み取るとともに、「悲しみ」について深く考える。 ・宮沢賢治の生い立ちについて知るとともに、「永訣の朝」を鑑賞し、この詩が書かれた背景や情景を理解する。	○	○	
	2					
	3					
	4					
1	2	(冬季休業)				
	3					
	4	○小説「こころ」 夏目漱石	・人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。 ・夏目漱石の生い立ちや他の作品について理解を深める。	○	○	○
	5					
2	1					
	3					
	4					
		(後期期末考查)セレクト漢字検定p126～135				
3	1	○文学の知識「角田光代について」 ○「八日目の蟬」(映画)鑑賞	○「八日目の蟬」を鑑賞し、筆者の伝えたいことを読み取ろうとするとともに、主題を読み解くキーワードを探し、生徒自身の「自らの問い」とのつながりについて考える。 ○自分の考えが相手に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にし、表現の仕方を工夫する。		○	○
	2					
	3					

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国語		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	古典探究		担当者	比企 絢子、 田中 美佐枝		
使用教材	教科書:新編古典探究(東京書籍)					
	教 材:体系古典文法(数研出版)、古文単語330(文英堂)、					
	カラー版新国語便覧(第一学習社))、漢文必携五定番訂版(桐原書店)					
学習目標	1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。					
	2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。					
	3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
	4					
学習方法	古文	・本文をスムーズに読めるように繰り返し音読する。 ・重要な文法事項や古文単語について理解する。 ・本文の内容を大まかに理解する。				
	漢文	・漢文を返り点等に注意しながら、スムーズに読めるように、繰り返し音読する。 ・句形や漢文特有の意味や働きを持つ漢字について理解する。 ・本文の内容を大まかに理解する。				
	共通	・その文章が書かれた時代背景を理解するとともに、文学史の流れやそれに付随する知識を習得する。				
必ず取り組む最小目標	・授業で取り扱う古文や漢文の内容を把握する。 ・古文における最低限の文法的な知識を理解する。 ・漢文における特定の漢字「(例)不・未・如・見・使など」の知識を理解する。					
実現したいと思う最大目標	・高校において古典(古文・漢文)を学ぶ意義を自分なりに考え、言葉として表現することができる。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総括して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・授業プリントの理解状況 ・小テスト等の結果		・定期考査 ・提出された課題の内容		・課題提出状況 ・授業に取り組む意欲
	A	・本文中の古文重要語句や用法を理解し、さらに本文で使用されている以外の別の意味や使われ方の知識を得ている。 ・文章の展開の仕方について理解し、説明している。 ・本文中の文法事項を理解し、さらに本文で使用されている以外の使われ方の知識を得ている。		・現代語訳する際の注意点を踏まえて、文脈や背景に沿った適切な現代語訳をしている。 ・作者の意図を正確に理解することができている。		・発表や討論を通して自分の考えをさらに深めようとしている。 ・授業で扱った教材以外の文学史等における知識を身に付けている。
	B	・本文中の古文重要語句の意味や用法を理解している。 ・文章の展開の仕方について理解している。 ・本文中の敬語などの文法事項を理解している。		・現代語訳する際の注意点を踏まえて本文を逐語訳している。 ・作者の意図を大まかに理解することができている。		・文章にまとめようとしている。 ・授業で扱った教材に関する文学史的な知識を身に付けている。
	C	・本文中の古文重要語句の意味や用法を理解していない。 ・文章の展開の仕方について理解していない。 ・本文中の文法事項を理解していない。		・現代語訳する際の注意点を踏まえて本文を逐語訳していない。 ・作者の意図を理解していない。		・文章にまとめようとしていない。 ・授業で扱った教材に関する文学史に興味を持たない。

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	オリエンテーション・文法事項	授業の受け方・成績の付け方の説明			○
	4	文法事項①	古典文法p48～52	○		
	5			○		
5	1	(連休)				
	2	説話に親しむ「大江山の歌」(十訓抄)①	音読、語句・意味確認、内容確認。時代背景・『十訓抄』文学史確認。	○		
	3			○		
	4			○		○
	5			説話に親しむ「大江山の歌」(十訓抄)②	定頼の発言について、小式部内侍と定頼の関係を明らかにしながら自身の考えを述べる。	
6	1	(前期中間考查) 古典単語「001ながむ」～「078あからさまなり」、文法プリント助動詞①～③				
	2	故事と小話「蛇足」(戦国策)①	再読文字のきまり確認、音読、語句・意味確認。準拠ワークによるまとめ(考查対策)	○		
	3			○		
	4			○		
	5	故事と小話「蛇足」(戦国策)②	たとえ話の効用を考え、自身でたとえ話を作る。		○	○
7	1	文法事項②	古典文法p53～63	○		
	2	(学校祭)				
	3			○		
	4	随筆を読む「ゆく河の流れ」(方丈記)①	音読、語句・意味確認、内容確認。時代背景・文学史確認。	○		
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	随筆を読む「ゆく河の流れ」(方丈記)②	音読、文法事項、口語訳、内容確認。準拠ワークによるまとめ(考查対策)	○		
9	1	(前期期末考查) 古典単語「079としごろ」～「156かたくななり」、文法プリント助動詞④～⑥				
	2	史記を読む「四面楚歌」(史記)	音読、文法事項、口語訳、内容確認。	○		
	3			○		
	4			○		
	5					○
10	1	作り物語を味わう「光源氏の誕生」(源氏物語)	音読、語句・意味確認、内容確認。時代背景・文学史確認。	○		
	2		音読、文法事項、口語訳、内容確認。準拠ワークによるまとめ(考查対策)	○		
	3			○		
	4			○		
11	1	京都の寺社仏閣をみて感じたこと、考えたことを述べる。			○	○
	2	文法事項③	古典文法p64～69	○		
	3	(後期中間考查) 古典単語「157あらはなり」～「250をこなり」、文法プリント助動詞⑦⑧				
	4			○		
12	1	唐詩と文「静夜思」「登岳陽楼」	漢詩の決まりの確認、音読、書き下し、口語訳、内容確認、作者の確認。	○		
	2			○		○
	3	文法事項④	古典文法p70～75	○		
	4	日記を読む「馬のはなむけ」(土佐日記)①	音読、語句・意味確認、内容確認。時代背景・『土佐日記』文学史確認。	○		
	5	(冬季休業)				
1	2					
	3					
	4			○		
	5	日記を読む「馬のはなむけ」(土佐日記)②	音読、文法事項、口語訳、内容確認。	○		
2	1	(後期期末考查) 古典単語「251ちぎり」～「330ぎやうがう・ごかう」、文法プリント助動詞⑨⑩			○	○
	2			○		
	3	三国志の世界「死諸葛走生仲達」(十八史略)	音読、書き下し、口語訳、内容確認。		○	○
	4			○		
3	1	文学史・古典常識①	古典文学史や古典常識のまとめ(国語便覧)		○	○
	2	(高校入試)				
	3	文学史・古典常識②	古典文学史や古典常識のまとめ(国語便覧)		○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	公民	学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	公共	担当者	鶴身幸一		
使用教材	教科書 公共（実教出版）				
	資料集 ニュービジョン 公共（浜島書店）				
学習目標	1 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。				
	2 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。				
	3 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通してかんようされるべき、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める				
学習方法	授業を大切にすること 1 〔教科書の熟読、ノート4つの観点(①板書②メモ③まとめ④感想・意見)・資料集の活用〕				
	2 テスト前に試験範囲は完璧に学習して仕上げる。 〔1～2週間前から教科書・ノート・プリントなどで丁寧に復習する。〕				
必ず取り組む最小目標	授業に臨む際には、生徒として最低限の義務を果たす。 〔居眠りをしない。私語を慎む。欠席数は充分注意すること。授業に必要な教材教具の用意、授業ノートの作成、配布プリントのファイル化、提出物の厳守〕				
実現したいと思う最大目標	現代の諸課題に対して、考察・選択・判断する能力を身に付け、日本の将来・未来により良い考えと行動が発揮できる人材となる。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査 ・課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題 ・小テスト	
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめることができる	①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる	
	B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる	①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている	
	C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる	①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める	①アドバイがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる	

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	ガイダンス 第1部「公共」のとびら 第 1 章 公共的な空間をつくる 私たち—社会のなかの自己	・年間進度を確認し、体験学習を通じて学習方法を学ぶ。 ・青年期における心の動きや自分自身の捉え方、人間関係などの特徴をふり返り、青年期の特徴や発達課題について理解し、自己形成について考察する。		○	○
	4	(1)現代社会に生きる青年 1 青年期と自己形成の課題 2 自己形成と社会への参画	・現代社会の特質やキャリア開発の意義、社会参画を通じて育てるシティズンシップの意義などについて理解し、キャリア開発や社会参画の意義について考察する。	○	○	○
	5			○	○	○
5	1	(連休)				
	2	(2)社会的な関係のなかで生きる人間 1個人として尊重される人間	・規則と自由に関する課題について、カントの義務論やJ.S.ミルの自由論を手がかりに、実際の場面を想定しながら、理解を深める。	○	○	○
	3	2社会的な存在としての人間	・日常的に用いられる「公共」の意味について考えながら、アーレントやハーバーマス、和辻哲郎の捉えた社会的存在としての人間のあり方及び公共空間について理解する。	○	○	○
	4	3伝統・文化のなかの人間 第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方—共に生きるための倫理	・日常使われている言葉の意味や用法に伝統や文化がかかわっていることを理解し、それがどのような課題につながっているか考察する。	○	○	○
	5	1 功利主義と幸福の原理 2 義務論と公正の原理	・行為の判断や選択の場面を想定し、目的論と義務論の区別について理解する。また、功利主義の快楽や幸福の考え方が、社会のあり方と関連していることを、事	○	○	○
	1	<活用> 生命倫理について考える	・人間にとっての善さや幸福を、人が徳を備えることに求める考え方を理解する。	○	○	○
	2	(前期中間考査)		○	○	○
	3	<活用> 環境倫理について考える	・義務論について、カントの道徳法則や自律の意味について、社会的不平等の是正について、ロールズの公正としての正義の考え方やセンの潜在能力という考え方を理解する。	○	○	○
	4	第3章 公共的な空間における基本的原理—私たちの民主的な社会	・先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察する。	○	○	○
	5	1公共的な空間における協働とは	・生命倫理、環境倫理について、功利主義と義務論の考え方を手がかりに、考察し議論する。	○	○	○
7	1		・社会における利害の調整のしくみとしての市場の働きと国家の役割、及びそれぞれの課題について理解する。	○	○	○
	2	(学校祭)				
	3	2 民主主義とは 3 立憲主義とは	・法の支配や近代立憲主義の意義について、歴史的背景もふまえながら理解し、立憲主義と民主主義の緊張関係の意味について考察する。	○	○	○
	4	4 人権保障の意義と展開	・公共的な空間における基本的原理の一つである、人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について理解する。また、日本国憲法の基本原理と基本的人権について理解する。	○	○	○
	5	(夏季休業)				
8	3					
	4	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち <テーマ1>	・民意を反映した政治を実現するための現状と課題について、世論調査、投票率、世論調査と選挙結果の関連から理解し、国民投票のメリットとデメリットについて、多面的・多角的に考察し議論する。	○	○	○
	5	民主政治と政治参加	・政治の働き、民主主義について理解し、現在の民主主義の課題について考察する。 ・地方自治の原則としくみ、地方財政のしくみと課題、住民参加の形態と意義につい	○	○	○
9	2	(前期期末考査)		○	○	○
	3	3 国会のしくみと役割 4 内閣のしくみと役割 5 政治参加と選挙	・三権分立と国会の地位、国会の役割と権限、国会の構成と運営について、理解し、実際の政治の運営の現状と課題について考察する。	○	○	○
	4	6 政党と利益集団 7 メディアと世論	・内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革について、実際の政治事象とも関連させながら理解し、今日の行政の課題について考察する。	○	○	○
	5	第2章 法の働きと私たち <テーマ1>	・政治参加の方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題について理解し、有権者の意思をよりよく反映するという視点から、日本の選挙制度について考察する。	○	○	○
	1	法や規範の意義と役割 1 法と社会規範の役割	・政党の役割、政党政治、利益集団、政治資金にかかわる課題について理解する。	○	○	○
10	2	2 法の成立と適用	・民主主義における世論の意義、メディアの世論への影響、インターネット時代の世論形成の現状と課題などについて理解し、正しい情報に基づく合理的な判断の重要性について考察する。	○	○	○
			・法と道徳や慣習などの規範の特性について、規制する対象や範囲、効力などの点			

10	3		・伝統的慣習は、成文法に比べて、成文する対象が範囲、効力は、それらから比較し理解する。 ・公共的な空間において、道徳やマナーに委ねる場合と、法的ルールによっている場合があることについて、事例をあげて考察する。 ・道徳を含む社会規範における法の特徴、法の役割、法の区分、特色について理解する。	○	○	○	
	4			○	○	○	
		見学旅行					
11	1	<テーマ2> 市民生活と私法 1 市民生活と法 2 多様な契約	・法案の作成と提出、民事裁判と刑事裁判、裁判における法の適用、法の解釈の意味などについて理解し、民事裁判、刑事裁判の特色、法の適用と解釈、市民にも求められるリーガルマインドの意義について考察する。 ・私法の役割と意義に関連して、インターネットによる契約の特性や転売について理解し多面的・多角的に考察し議論する。 ・私法の性格、私法の三つの原則、過失責任の原則などについて理解し、公共の福祉とのかかわり、過失責任の原則の意義について考察する	○	○	○	
	2			○	○	○	
	3			○	○	○	
	4	(後期中間考査)			○	○	○
12	1	3 消費者の権利と責任	・消費者契約の特色、消費者法制と消費者の権利、消費者主権と消費者市民社会形成などについて理解し、消費者の権利とその尊重、自立支援について考察する。 ・裁判員と死刑制度、死刑制度の合憲性と世論、国際社会における死刑制度について理解し、多面的・多角的に考察し議論する。	○	○	○	
	2	<テーマ3> 国民の司法参加 1 司法のしくみと役割 2 刑事司法と司法参加の意義	・司法権とその独立、裁判制度のしくみ、違憲審査権について理解し、その意義について考察する。 ・刑事司法のしくみや原則、刑事司法の課題、裁判員制度や検察審査会制度について理解し、刑事司法の課題や司法への民意の反映の意義と課題について考察する。	○	○	○	
	3			○	○	○	
	4			○	○	○	
	5	(冬季休業)					
1	2						
	3	第5章 国際社会のなかで生きる私たち <テーマ1> 国際社会のルールとしくみ	・有限な資源を維持管理していくか、漁業をめぐる国際社会の課題を例に多面的・多角的に考察し、国家間の利害が錯綜する課題解決のためのルールや国際協力について理解する。 ・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて理解し、国際社会におけるさまざまな問題が生じる背景と外交や国際法の意義について多面的・多角的に考察する。 ・国際連盟、国際連合の成立とそのしくみ、国際連合における安全保障やさまざまな役割と課題について理解し、国連の安全保障に果たす意義と課題について考察する。	○	○	○	
	4	1 国際社会の成り立ち 2 国際連合の役割		○	○	○	
2	5			○	○	○	
	1	<テーマ2> 国際社会と平和主義 1 日本の平和主義と冷戦 2 冷戦後の世界と日本	・核兵器をめぐる世界の動きを、核拡散の現状、国連における核兵器禁止条約、INF全廃条約の失効などから理解し、核軍縮について、多面的・多角的に考察し議論する。 ・平和主義と日本国憲法第9条、自衛隊と日米安全保障条約、戦後日本の防衛政策について理解する。 ・冷戦後の世界の動き、冷戦終結後の日本の安全保障政策、自衛隊と海外派遣などについて理解し、日本の安全保障政策の変化の背景にある国際関係について考察するとともに、今後の安全保障の課題について追究する。	○	○	○	
	2			○	○	○	
	3			○	○	○	
	4	後期期末考査			○	○	○
3	1	<テーマ3> 国際平和への課題 1 現代の紛争とその影響	・主権国家内部で起こる紛争と人権侵害について、事例を手がかりに理解し人権保護のための他国や国際機関の武力介入について、多面的・多角的に考察し議論する。 ・現代の紛争とその要因、紛争の解決に向けた取り組み、難民問題について理解する。	○	○	○	
	2	(高校入試)					
	3	2 平和な国際社会に向けて	・紛争や難民問題の解決に向けて国際機関やNGOなどの取り組みが求められていることを理解する。 ・平和の意味、外交を通じた平和の実現の意義、日本の立場と役割について理解し、平和憲法をもつ日本として、国際平和に向けてどのような姿勢で何をなすべきか、多面的・多角的に考察し議論する。	○	○	○	

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地歴公民	学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	地理探究	担当者	辻 眞		
使用教材	教科書：新詳地理探究(帝国書院)				
	地図帳：新詳高等地図（帝国書院）				
	資料集：新詳地理資料 COMPLETE 2024(帝国書院)				
学習目標	地理総合での学習を踏まえ、最新の世界情勢や学術動向をより深く理解し、現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
学習方法	1 授業を大切に積極的に取り組み、重要な知識の定着に心がける。また、課題にしっかり取り組み、忘れずに提出する。				
	2 暗記だけでなく、グラフを分析したり地図の読図・作図などができることが重要である。わからない地名などが出てきたときには地図帳で調べることが大切である。				
	3 世界諸地域の生活・文化及び地球的課題を理解するためにも、新聞やテレビ等から積極的に情報を得ようとする姿勢が大切である。				
必ず取り組む最小目標	生徒として最低限の義務を果たすことができる。(1)出席する (2)私語・居眠りをしない (3)チャイム前着席・授業の準備を忘れない (4)ノートやプリントの記入は丁寧に行う。				
実現したいと思う最大目標	地球市民として「異文化の尊重」と「国際協力の推進」のために、(1)多文化共生 (2)持続可能な開発 (3)人権尊重 (4)公正さ などの実現をめざして積極的に関わっていこうとする態度を身につける。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	定期考査、課題、小テスト	定期考査、課題	学習活動状況、課題	
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる	①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる	
	B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている	①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする	
	C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる	①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる	①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める	

年 間 計 画					評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)					
	3	自然環境	地球環境と人間		○		
	4		地形		○		○
	5		地形			○	
5	1	(連休)					
	2		地形		○		
	3		気候		○		○
	4		気候			○	
	5		気候		○		
6	2	(前期中間考査)					
	3		日本の自然環境		○		○
	4		日本の自然環境		○		
	5	資源と産業	農林水産業		○		
7	1		農林水産業		○		
	2	(学校祭)					
	3		エネルギー・鉱産資源		○		○
	4		エネルギー・鉱産資源			○	
	5						
8	1	(夏季休業)					
	2						
	3						
	4						
	5		資源・エネルギー問題		○	○	
9	1		工業		○		
	2	(前期期末考査)					
	3		第3次産業		○		
	4	交通・通信と観光、貿易	交通・通信		○		
	5		観光		○		
10	1		貿易と経済圏		○		
	2	人口、村落・都市	人口		○		
	3		人口問題			○	○
	4		村落と都市		○		
	5		村落と都市			○	
11	1		都市・居住問題		○	○	
	2	生活文化、民族・宗教	衣食住			○	
	3		民族・宗教と民族問題		○	○	
	4	(後期中間考査)					
	5		国家の領域と領土問題		○		○
12	1	現代世界の諸地域	中国・韓国		○		
	2		ASEAN諸国		○		
	3		インド		○		
	4	(冬季休業)					
	5						
1	1						
	2						
	3		西アジアと中央アジア		○		
	4		北アフリカとサハラ以南アフリカ		○		
2	5		EU諸国・ロシア		○		
	1		アメリカ合衆国		○		
	2	(後期期末考査)					
	3		ラテンアメリカ・オーストラリアとニュージーランド		○		
3	1	(高校入試)					
	2	持続可能な国土像の探究	将来の国土の在り方・持続可能な日本の国土像の探究			○	○
	3	持続可能な国土像の探究	将来の国土の在り方・持続可能な日本の国土像の探究			○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地理歴史	学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	日本史探究	担当者	寺嶋 優駿		
使用教材	教科書 高等学校 日本史探究 新視点による日本通史とアジア・世界（清水書院）				
	史料集 図説 日本史通覧（帝国書院）				
学習目標	我が国の歴史の展開に関する諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解し、調査や諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる。				
	我が国の歴史の展開に関する事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、歴史的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察、構想、表現する。				
	我が国の歴史の展開に関する諸事象について、よりよい国家や社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国や他国の伝統や文化を尊重する。				
学習方法	授業を大切にすること 1 〔教科書の熟読、作業の丁寧さ、プリント・資料集の活用〕				
	2 テスト前に試験範囲は完璧に学習して仕上げる。 〔1～2週間前から教科書・ノート・プリントなどで丁寧に復習する。〕				
必ず取り組む最小目標	授業に臨む際には、生徒として最低限の義務を果たす。 〔居眠りをしない。私語を慎む。欠席数は充分注意すること。授業に必要な教材教具の用意、授業ノートの作成、配布プリントのファイル化、提出物の厳守〕				
実現したいと思う最大目標	日本の歴史について学ぶことで、日本の将来・未来により良い考えと行動が発揮できる人材となる。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査 ・課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題 ・小テスト	・定期考査への取り組み状況 ・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる	①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる	
	B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている	①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする	
	C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる	①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる	①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める	

年 間 計 画				評価の観点		
月	編	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に
4	序	(入学式)				
		序 私たちはなぜ歴史を学ぶのか	・ 歴史への関心を高めるとともに、歴史を学ぶ視点や意義、歴史資料の特性についての関心と課題意識を高める。		○	○
		第1章 黎明期の日本列島と歴史的環境	・ 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する。	○	○	○
		1 日本列島域の旧石器文化とはどのようなものか 2 縄文人はどのような暮らしをしていたのか 3 弥生人はどのような暮らしをしていたのか	・ 自然環境と人間生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・ 黎明期の日本列島と歴史的環境について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。 ・ 原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身につける。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	原始・古代の日本と東アジア	第2章 歴史資料と原始・古代の展望	・ 前章の学習を踏まえ、黎明期の日本列島の変化に着目して、原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。 ・ 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 ・ 歴史資料と原始・古代の展望について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
		第3章 古代の国家・社会の展開と画期	・ 国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、古代の政治・社会や文化の特色を理解する。	○	○	○
		第1節 古代国家の形成と東アジア 4 倭国は東アジア世界とどうかかわったのか 5 前方後円墳は何をあらわしているのか 6 ヤマト政権はどのように倭国をまとめていたのか 7 飛鳥文化を生み出した背景とは 8 律令国家はどのように形成されたのか 9 律令体制の仕組みとは 10 奈良時代の政治はどのように推移したのか 11 天平文化を生み出した背景とは 〈女性の歴史〉1 出土資料にみる生中時代の女性	・ 中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 ・ 古代国家の形成、古代の政治・社会や文化の特色について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	5	連休				
		第2節 古代国家の推移と社会の変化	・ 貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の誕生などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。 ・ 地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	○ ○	○ ○	○ ○
		12 律令政治の再建はどのようにおこなわれたのか 13 平安初期の文化はどのような国際環境で育まれたのか 14 摂関時代の政治はどのように推移したのか 15 東アジアの変動と国風文化にはどんな関係があるのか 〈もっと知りたい日本史〉2 仏像からみる古代史 〈もっと知りたい日本史〉3 国風文化を生み出した東アジアの変	・ 律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。	○	○	○

5	第2編 中世の日本と世界	第1章 中世への転換と歴史的環境	- 政治主体や土地支配の変容を基に古代から中世への時代の転換を理解する。 - 権力の主体の変化, 東アジアとの関わりなどに着目して, 古代から中世の国家・社会の変容について, 多面的・多角的に考察し, 表現する。 - 古代から中世への転換と歴史的環境について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。	☐	☐	☐
		16 中世社会はどのようにして成立したのか 17 国家の武力はだれがになったのか 18 中世の国家はどのように形成されたのか 19 「武者の世」はどのようにしてはじまったのか		☐	☐	☐
		第2章 歴史資料と中世の展望	- 中世の特色を示す適切な歴史資料を基に, 資料から歴史に関わる情報を収集し, 読み取る技能を身につける。 - 前章の学習を踏まえ, 古代からの時代の変化に着目して, 中世の特色について多面的・多角的に考察し, 時代を通観する問いを表現する。 - 歴史資料の特性を踏まえ, 資料を通して読み取れる情報から, 中世の特色について多面的・多角的に考察し, 仮説を表現する。 - 歴史資料と中世の展望について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。	☐	☐	☐
		第3章 中世の国家・社会の展開と画期 第1節 武家政権の成立と展開 20 鎌倉幕府はどのようにして成立したのか 21 鎌倉幕府はどのように勢力を拡大したのか 〈もっと知りたい日本史〉4 硫黄の交易にみる東部ユーラシアと日本列島 〈地域の歴史〉1 東国御家人の移住―西遷御家人・北遷御家人 22 鎌倉仏教の特色は何か 23 鎌倉文化の特色は何か 24 モンゴル(元)はなぜ日本を攻め取れなかったのか 25 鎌倉幕府はなぜ滅びたのか	- 武家政権の成立と展開, 産業の発達, 宗教や文化の展開などを基に, 武家政権の伸長, 中世の社会や文化の特色を理解する。 - 公武関係の変化, 宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して, 主題を設定し, 中世の国家・社会の展開について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 - 武家政権, 宗教と文化の展開について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。	☐	☐	☐
6		第2節 武家政権の変容と中世の社会 26 建武政権はなぜ崩壊したのか 27 室町幕府の政治はどのように推移したのか 28 元寇後の東アジアの交流はどのようなものか 〈もっと知りたい日本史〉5 中世の随筆から読み解く社会と「唐物」 〈地域の歴史〉2 古代・中世の蝦夷地とアイヌ	- 政治や文化の多元化, 多様化, 国際関係の変化などを基に, 地域権力の成長, 社会の変容と文化の特色を理解する。 - 社会や経済の変化と影響, 東アジアの国際情勢の変化とその影響, 地域の多様性, 社会の変化と文化の関係などに着目して, 主題を設定し, 中世の国家・社会の変容について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 - 武家政権, 宗教と文化の展開について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。	☐	☐	☐
		29 一揆はどのようにして生まれ, 中世の自治を支えたのか 30 中世の産業は民衆生活をどのように豊かにしたのか 31 中世の商業・流通はどのようにうごいたのか 32 戦国時代はなぜはじまったのか 33 戦国大名の領国支配の国際的背景とは	前期中間			

7	第3編 近世の日本と世界	第1章 近世への転換と歴史的環境 35 近世初頭の東アジア情勢はどのようなものか 36 信長と秀吉はどのようにして天下を統一したのか	- 政治・経済政策や対外関係を基に中世から近世への時代の転換を理解する。 - 村落や都市の支配の変化, アジアやヨーロッパとの交流などに着目して, 中世から近世の国家・社会の変容について, 多面的・多角的に考察し, 表現する。	○	○	○
		37 秀吉の政治と対外政策はどのようなものか 38 信長・秀吉の時代の文化の特色は何か 〈地域の歴史〉4 九州地方と東アジア海域世界 〈もっと知りたい日本史〉6 秀吉の対外政策	中世から近世への転換と歴史的環境について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。	○	○	○
7		第2章 歴史資料と近世の展望	- 近世の特色を示す適切な歴史資料を基に, 資料から歴史に関わる情報を収集し, 読み取る技能を身につける。 - 前章の学習を踏まえ, 中世からの時代の変化に着目して, 近世の特色について多面的・多角的に考察し, 時代を通観する問いを表現する。 - 歴史資料の特性を踏まえ, 資料を通して読み取れる情報から, 近世の特色について多面的・多角的に考察し, 仮説を表現する。 - 歴史資料と近世の展望について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。	○	○	○
			学校祭			
8	第3編 近世の日本と世界	第3章 近世の国家・社会の展開と画期 第1節 幕藩体制の成立と近世の社会 39 幕藩体制はどのようなものか 40 江戸時代の社会はどのようなものか 41 近世の国際関係はどのように形成されたのか 〈地域の歴史〉5 近世の蝦夷地とアイヌの人々 〈地域の歴史〉6 近世の琉球と奄美 42 江戸幕府の政治はどのように推移したのか 43 江戸時代の産業はどのように発展したのか 44 江戸時代の交通と都市はどのように発達したのか 45 儒学と学問はどのように展開したのか 46 江戸時代中期までの文化の特色は何か 〈もっと知りたい日本史〉7 近世社会を構成したさまざまな人々 〈女性の歴史〉3 江戸時代の遊女	- 支配秩序や対外関係, 技術・産業・文化の展開などを基に, 幕藩体制の確立や近世の社会と文化の特色を理解する。 - 織豊政権との類似と相違, アジアの国際情勢の変化, 交通・流通の発達, 都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して, 主題を設定し, 近世の国家・社会の展開について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 - 幕藩体制の確立や近世の社会と文化について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。	○	○	○
			夏季休業			
9		第2節 幕藩体制の動揺と社会の変化 47 吉宗はどのような政治をおこなったのか 48 村と町はどのように姿をかえていったのか 49 田沼の政治や寛政の改革は何をめざしたのか 50 外国船の接近は幕府にどのような影響をあたえたのか 51 幕府・諸藩はどのような改革をおこなったのか 52 近世後期の文化の特色は何か 53 近世後期の学問や思想はどのように発達したのか 〈もっと知りたい日本史〉8 江戸時代の朝幕関係 〈地域の歴史〉7 元禄大地震と大	- 政治体制や社会の動揺, 産業・学問の発展, 庶民の生活や文化などを基に, 幕藩体制の変容, 庶民の生活と文化の特色, 近代化の基盤の形成を理解する。 - 社会・経済の仕組みの変化, 幕府や諸藩の政策の変化, 国際情勢の変化と影響, 政治・経済と文化の関係などに着目して, 主題を設定し, 近世の国家・社会の変容について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 - 近世の政治や社会の変容, 近代化の基盤について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。	○	○	○
			前期末考查			

第4編 近現代の地域・日本と世界	第1章 近代への転換と歴史的環境 54 日本はなぜ開港したのか 55 開港は国内にどのような影響をあたえたのか 56 尊王攘夷運動はどのように展開したのか 57 江戸幕府はどのように滅びたのか 第2章 歴史資料と近代の展望	・ 対外関係や政権の転換を基に近世から近代への時代の転換を理解する。	☐	☐	☐
		・ 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化, 政治・経済の変化と思想への影響などに着目して, 近世から近代への国家・社会の変容について, 多面的・多角的に考察し, 表現する。	☐	☐	☐
		・ 近代への転換と歴史的環境について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。	☐	☐	☐
		・ 近代の特色を示す適切な歴史資料を基に, 資料から歴史に関わる情報を収集し, 読み取る技能を身につける。	☐	☐	☐
		・ 前章の学習を踏まえ, 時代の転換に着目して, 近代の特色について多面的・多角的に考察し, 時代を通観する問いを表現する。	☐	☐	☐
		・ 歴史資料の特性を踏まえ, 資料を通して読み取れる情報から, 近代の特色について多面的・多角的に考察し, 仮説を表現する。	☐	☐	☐
		・ 歴史資料と近代の展望について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。	☐	☐	☐
	第3章 近現代の地域・日本と世界の画期と 58 新政府はどのような国家をめざしたのか 59 明治政府はどのような経済政策を進めたのか 60 明治政府の宗教・文教政策はどのようなものだったのか 61 明治初期の対外関係はどのように変化したのか 〈地域の歴史〉8 近代の蝦夷地・北海道 〈地域の歴史〉9 近代の琉球・沖縄 62 欧米文化は社会にどのような影響をあたえたのか 63 自由民権運動はなぜはじまったのか 64 自由民権運動はなぜ衰退したのか 65 立憲体制はどのようにして確立したのか 66 条約改正はどのようにして達成されたのか	見学旅行			
		・ 明治維新, 自由民権運動, 大日本帝国憲法の制定, 文明開化の風潮, 条約改正などを基に, 立憲体制への移行, 国民国家の形成, アジアや欧米諸国との関係の変容を理解する。	☐	☐	☐
		・ アジアや欧米諸国との関係, 地域社会の変容, 欧米の思想・文化の影響などに着目して, 主題を設定し, 近代の政治の展開と諸外国との関係の確立について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	☐	☐	☐
		・ 明治維新や国民国家の形成, 産業の発展の経緯, 近代の文化の特色について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する	☐	☐	☐
		後期中間考査			
		・ 日清・日露戦争などを基に, 立憲体制の推移や展開, 国民国家の形成, アジアや欧米諸国との関係の変容を理解する。	☐	☐	☐
		・ 日清・日露戦争が及ぼした影響などに着目して, 主題を設定し, 近代の政治の展開と国際的地位の確立について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	☐	☐	☐

1 1	67 日清戦争前後の国内政治はどのようなものか 68 日清戦争はなぜ起きたのか 69 日清戦争後の東アジア情勢はどのように推移したのか 70 日露戦争はどのような戦争だったのか 71 日露戦争後の東アジア情勢はどのように変化したのか 72 近代産業はどのように発展したのか	- アジアや欧米諸国との関係の変容について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。 - 産業革命の展開、学問の発展や教育制度の拡充、社会問題の発生などを基に、産業の発展の経緯と近代文化の特色を理解する。 - 産業の発達の背景と影響、地域社会における労働や生活の変化、教育の普及とその影響などに着目して、主題を設定し、日本の工業化の進展と近代の文化の形成について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 - 近代の産業の発展と近代の文化の特色について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。	○	○	○	
	73 社会問題に政府はどのように対応したのか 74 明治の思想・教育・学問の特色は何か 75 明治文化の特色は何か 〈女性の歴史〉4 製糸業と工女 〈もっと知りたい日本史〉9 近	後期中間考査				
	第2節 政党政治と大衆社会 76 政党政治はどのように発展したのか—明治から大正へ	第一次世界大戦、社会運動の動向、政党政治などを基に、政治参加の拡大の意義、アジアや欧米諸国との関係の変容、大衆社会の形成を理解する。	○	○	○	
1 1	77 第一次世界大戦に日本はどのようにかかわったのか 78 第一次世界大戦は日本にどのような影響をあたえたのか 79 第一次世界大戦後の日本外交はどのようなものか 80 大正デモクラシーとはどのようなものか 81 政党内閣制はどのようにして確立したのか 82 大正前後の文化の特徴は何か 〈女性の歴史〉5 新しい女 〈地域の歴史〉10 関東大震災	- 地域社会における労働や生活の変化、第一次世界大戦が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、国民の政治参加の拡大と日本の工業化の進展について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 - アジアや欧米諸国との関係の変容や大衆社会の形成について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。	○	○	○	
	第3節 第二次世界大戦と日本の社会 83 昭和初期の経済不況はどのようなものだったのか 84 昭和初期の外交はどのようなものだったのか 85 ファシズムはどのようにして台頭したのか 86 日本はなぜ国際連盟を脱退したのか 87 軍部ははどのようにして台頭したのか 88 日中戦争の長期化のなかでつくられた戦時体制とは 89 第二次世界大戦は日本にどのような影響をあたえたのか 90 アジア太平洋戦争はどのように推移したのか 91 戦時下の国民生活はどのようなものだったのか 92 アジア太平洋戦争はどのようにして終結したのか 〈地域の歴史〉11 都市への空襲と模擬原爆投下訓練 〈もっと知りたい日本史〉10 戦時下の植民地と満州	- 恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。 - 国際社会やアジア近隣諸国との関係、政治・経済体制の変化、戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、主題を設定し、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 - 第二次世界大戦に至るまでや戦時中の政治や社会、国民生活の変容について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究	○	○	○	
	冬季休業					

1	第4節 現代の日本と世界	93 占領政策はどのように進められたのか 94 占領下の経済と政治はどのように推移したのか 95 戦後の経済政策はどのように転換したのか 96 戦後の人々の暮らしはどのようなものか 〈もっと知りたい日本史〉11 アジアの解放 〈地域の歴史〉12 復員と引揚げ―舞鶴港 97 冷戦は占領政策にどのような影響をあたえたのか 98 独立後の政治はどのように推移したのか 99 55年体制はなぜ成立したのか 100 独立後の日米関係はどのように変化したのか 〈地域の歴史〉13 沖縄と基地	- 占領政策と諸改革, 日本国憲法の成立, 平和条約と独立の回復, 戦後の経済復興などを基に, 我が国の再出発及びその後の政治や対外関係を理解する。 - 第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違, 冷戦の影響などに着目して, 主題を設定し, 戦前と戦後の社会の変容, 戦後政治の展開について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 - 第二次世界大戦後の社会や政治について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。	○	○	○
		101 高度経済成長はなぜおきたのか 102 高度経済成長は社会にどのような影響をあたえたのか 103 55年体制下の政治はどのように推移したのか	アジア諸国との関係, 高度経済成長, 社会・経済・情報の国際化などを基に, 戦後の経済や対外関係, 国民生活の変容, 現代の政治や社会の枠組みを理解する。	○	○	○
2	第4編 近現代の地域・日本と世界	104 1990年代の政治や経済におきた変化とは 105 日本はこれからどのような道を歩むのか 〈もっと知りたい日本史〉12 『昭和天皇実録』にみる昭和天皇の幼少期 〈もっと知りたい日本史〉13 戦後の文化	- 冷戦の推移と終結, グローバル化の進展の影響, 国民生活や地域社会の変化などに着目して, 主題を設定し, 戦後政治の展開, 日本経済の発展, 戦後の国際社会における日本の役割について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 - 現代の政治や社会の枠組みにつながる戦後の政治や経済, 外交, 社会について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。	○	○	○
		後期期末考査				
3	主題学習	第4章 近現代の歴史の画期	- 日本と世界の相互の関わり, 地域社会の変化, これまでの近現代の学習で見出した画期などに着目して, 事象の意味や意義, 関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察し, 日本の近現代を通じた歴史の画期を見出し, 根拠を示して表現する。 - 第3章までの学習を振り返るとともに, 科目のまとめである次の学習へのつながりを見出す。	○	○	○
		高校入試				
	主題学習	第5章 現代の日本の課題の探究 1. 江戸時代の火山災害 2. 地域からみた日本の戦後史 3. 年中行事から探る伝統文化	- これまでの学習の成果を活かし, 主題に関する歴史的経緯を踏まえて, 現代日本の課題を理解する。 - 歴史の画期, 地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係, それ以前の時代からの継続や変化などに着目して, 現代の日本の課題の形成に関わる歴史について, 適切な主題を設定して多面的・多角的に考察, 構想して表現する。 - これまでの自身の学習を振り返って調整するとともに, 生徒自身が主体となる社会への見通しを示す。	○	○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数 学		学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	数学Ⅱ		担当者	中村一彦・持田裕孝		
使用教材	東京書籍 数学Ⅱ Standard					
	東京書籍 WIDE Ⅱ+B Standard Buddy					
学習目標	1 整式の性質を理解し、3次式以上の整式の展開や因数分解、整式の除法について理解をする。 また、証明の流れを理解し論理的な証明ができる。					
	2 複素数まで数の範囲を広げ、2次方程式について理解を深め、高次方程式を解くことができる。					
	3 図形の性質を座標平面上で考えることができる。					
	4 三角関数、指数関数、対数関数の性質を理解する。					
	5 微分法・積分法を計算問題で終わらせることなく、視覚的なものにも着眼して学習する。					
学習方法	1 授業ではノートをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むように努力すること。					
	2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、宿題＋小テストに毎回取り組み、副教材などで繰り返し復習し実力を高めること。					
	3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習すること。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト		・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況 ・自発的なノート提出
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 積極的に評価・改善しようとしたりしている。
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し, 数学を活用しようとしたり, 数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとしたりしている。
	C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることができない。		数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。		数学のよさを認識しようとしせず, 粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようとなない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとなない。

年 間 計 画

月	週	単 元	内 容
4	2	(入学式)	
	3	第1章 方程式・式と証明 1節 多項式・分数式	3次式の展開・因数分解の公式(復習)、パスカルの三角形や二項定理を理解する。
	4	〃	整式の割り算や分数式の計算をする。係数比較法や代入法で恒等式となるように係数を求める。
	5	2節 2次方程式	複素数の性質を理解し、四則計算をする。2次方程式の解が虚数解になる場合もあることを学ぶ。
5	1	(連休)	
	2	第2章 複素数と方程式 1. 複素数と2次方程式の解	解と係数の関係を用いて、対称式や因数分解について考察する。
	3	3節 高次方程式	剰余の定理、因数定理、高次方程式
	4	4節 式と証明	恒等式、等式の証明や不等式の証明について学ぶ。
6	1	(前期中間考査)	
	2	第2章 図形と方程式 1節 点と直線	内分点、外分点、重心について考察する。
	3	〃	直線の方程式について考察する。直線に関して対称な点について考察する。
	4	2節 円	円と直線の位置関係や共有点の個数について学ぶ。
7	1	〃	2つの円の位置関係について考察する。
	2	(学校祭)	
	3	3節 軌跡と領域	平面上の点の軌跡について、座標平面を利用して考察する。
	4	〃	不等式の表す領域を図示する。
	5		
8	1		
	2		
	3		(夏季休業)
	4		
	5	第3章 三角関数 1. 三角関数	一般角、弧度法について考える。弧度法で表された三角関数の値を求める。三角関数のグラフを書く。
9	1	〃	三角関数を含む方程式・不等式を解く。
	2	(前期期末考査)	
	3	2節 加法定理	加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求める。
	4	〃	〃
	5	〃	2倍角の公式、半角の公式、合成について学ぶ。
10	1	〃	〃
	2	〃	〃
	3	第4章 指数関数と対数関数 1節 指数関数	指数法則の拡張について考察する。
	4	(見学旅行2学年)	
11	1	〃	指数関数のグラフや性質について学ぶ。
	2	2節 対数関数	指数と対数の関係を考える。対数の性質や対数関数のグラフについて学ぶ。
	3	〃	〃
	4	(後期中間考査)	
12	1	〃	〃
	2	第5章 微分法と積分法 1節 微分の考え	平均変化率、微分係数の定義を理解し、計算する。
	3	〃	導関数の定義を理解する。導関数の計算をする
	4	〃	接線の公式を理解し、接線の方程式を求める。
	5		
1	1	(冬季休業)	
	2		
	3	〃	〃
	4	〃	関数のグラフと増減
2	1	〃	〃
	2	(学年末考査1・2学年)	
	3	2節 積分	不定積分の定義や性質を理解し、不定積分を計算する。
	4	〃	定積分の定義や性質を理解し、不定積分を計算する。
3	1	(高校入試)	
	2	〃	〃
	3	〃	〃

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数 学		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	数学B		担当者	高松朋亮		
使用教材	数学B Standard （東京書籍）					
	Standard Buddy WIDE 数学Ⅱ +B					
学習目標	1 簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。					
	2 確率変数とその分布、統計的な推測について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。					
	3					
学習方法	1 授業ではノートをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むように努力すること。					
	2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、宿題＋小テストに毎回取り組み、副教材などで繰り返し復習し実力を高めていくこと。					
	3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習すること。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト		・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 積極的に評価・改善しようとしたりしている。
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し, 数学を活用しようとしたり, 数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとしたりしている。
	C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることができない。		数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。		数学のよさを認識しようとして, 粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようとしていない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとしていない。

年 間 計 画

評価の観点

月	週	単 元	内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	1章 数列 1節 数列 1. 数列	数列についての基本的な用語の意味を理解する。	1		1
	4	2. 等差数列	等差数列の公差、一般項などを理解する。	1	1	
	5	〃	等差数列の和について考察する。	1	1	
5	1	(連休)				
	2	3. 等比数列	等比数列の公比、一般項などを理解する。	1	1	
	3	〃	等比数列の和について考察する。	1	1	
	4	等差数列と等比数列の復習	問題演習	1	1	
6	1	(前期中間考查)				
	2	4. 和の記号 Σ	和の記号 Σ の意味と性質を理解する。	1	1	1
	3	5. 階差数列	階差数列を利用して、もとの数列の一般項を求める。	1		
	4	6. いろいろな数列	いろいろな数列の和や群数列について考察する。		1	1
7	1	〃	〃		1	1
	2	(学校祭)				
	3	2節 1. 漸化式	漸化式について理解し、さまざまな事象の考察に応用する。	1	1	
	4	〃	〃	1	1	
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4	2. 数学的帰納法	数学的帰納法について理解し、数学的帰納法を用いてさまざまな命題を証明する。	1	1	1
9	1	(前期期末考查)				
	2	2章 統計的な推測 1節 標本調査 1. 母集団と標本	標本調査の考え方について理解を深める。	1		1
	3	2節 確率分布 1. 確率変数と確率分布	確率変数、確率分布の意味を理解し、確率分布を求める。	1		1
	4	2. 確率変数の平均と分散	確率変数の平均と分散、標準偏差の意味を理解し、それらを応用する。	1		
	5	〃	〃	1		
10	1	3. 確率変数の和と積	確率変数の和の平均、および独立な確率変換の積の平均や和の分散を求める。	1		
	2	〃	〃	1		
	3	4. 二項分布	二項分布の特徴を理解し、二項分布に従う確率変数の確率、平均、分散を求める。	1	1	1
	4	(見学旅行2学年)				
11	1	〃	〃	1	1	1
	2	3節 正規分布 1. 正規分布	連続分布、正規分布について理解し、正規分布に従う確率変数が条件を満たす確率を求める。	1	1	1
	3	〃	正規分布に近似することで二項分布について考察する。	1	1	1
	4	(後期中間考查)				
12	1	4節 統計的な推測 1. 母集団の分布	母集団の平均、分散、標準偏差を求める。	1		
	2	2. 標本平均の分布	母集団分布と標本分布の関係、および標本平均の分布の特徴について理解する。	1	1	1
	3	〃	標本平均の平均と標準偏差や、標本平均が条件を満たす確率を求める。	1	1	
	4	3. 母平均の推定	正規分布を利用した信頼区間の考え方を理解し、母平均および母比率を推定する。	1	1	
	5					
1	1	(冬季休業)				
	2					
	3	〃	〃	1	1	
	4	4. 仮説検定の方法	正規分布を利用した仮説検定の考え方を理解し、それを活用する。	1	1	
2	1	〃	〃	1	1	
	2	(後期期末考查)				
	3	統計的な推測の復習	問題演習	1	1	1
	4	〃	〃	1	1	1
3	1	(高校入試)				
	2	数学Bの総復習	数列・統計的な推測の演習問題を解く。	1	1	1
	3	〃	〃	1	1	1

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	物理基礎		担当者	皆川 洋 ・ 高橋 玲美		
使用教材	物理基礎(数研出版)					
	リードLightノート 物理基礎					
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。					
	2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。					
	3 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。					
	4					
学習方法	1 授業前に教科書を読み、重要語句・中学校での既習事項を確認する。					
	2 授業では、板書を写すことにとどまらず、計算過程や式の変形の過程を自分自身で繰り返し、理解を深める。					
	3 問題集を解き、理解度を確認する。小テストごとに復習する。プリントの発展的な問題にも積極的に取り組もう。					
必ず取り組む最小目標	その時間のノートは、その時間に自分で書くこと。休んだ場合は、速やかに人から借りて写しておくこと。					
実現したいと思う最大目標	地球を守る意識を持つ					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査 ・単元テスト・小テスト ・実験	・定期考査 ・課題の取り組み状況 ・実験レポート		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況 ・その他	
	A	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。	
	B	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。あるいは、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だしている。または、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わっている。あるいは、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	C	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解していない。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けていない。	自然の事物・現象から問題を見いだせない。見通しをもって観察、実験などを行っていない。得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究していない。		自然の事物・現象に主体的に関わっていない。見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしていない。	

年 間 計 画					評価の観点		
月	週	単 元		学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
4	2	(入学式)					
	3	ガイダンス		ガイダンス			○
	4	運動とエネルギー	運動の表し方	速度	○		○
	5			速度	○	○	○
5	1	(連休)					
	2			加速度	○	○	○
	3			加速度	○		○
	4			落下運動	○		○
	5			投げ上げ・水平投射	○	○	○
6	2	(前期中間考査)					
	3	運動の法則		力とその働き	○	○	○
	4			力のつりあい	○	○	○
	5			運動の法則	○	○	○
7	1			摩擦	○	○	○
	2	(学校祭)					
	3			液体や気体から受ける力	○	○	○
	4			演習問題	○		○
	5						
8	1	(夏季休業)					
	2						
	3						
	4						
	5	仕事と力学的エネルギー		仕事	○		○
9	1			運動エネルギー	○		○
	2	(前期期末考査)					
	3			位置エネルギー	○	○	○
	4			力学的エネルギーの保存	○	○	○
	5			演習問題	○		○
10	1	熱	熱とエネルギー	熱と物質の状態	○	○	○
	2			熱と物質の状態	○	○	○
	3			熱と仕事	○	○	○
	4			熱と仕事	○	○	○
	5			問題演習	○		○
11	1	波	波の性質	波と媒質の運動	○	○	○
	2			波の伝わり方	○	○	○
	3			問題演習	○		○
	4	(後期中間考査)					
	5		音	音の性質	○	○	○
12	1			共振	○	○	○
	2			共鳴	○	○	○
	3			問題演習	○		○
	4						
	5	(冬季休業)					
1	1						
	2						
	3	電気	物質と電気	電気の性質	○	○	○
	4			電気と電気抵抗	○	○	○
2	5			電気とエネルギー	○	○	○
	1	磁場と交流		電流と磁場	○	○	○
	2	(後期期末考査)					
	3						
3	4			交流と電磁波	○	○	○
	1	(高校入試)					
	2			問題演習	○		○
	3			まとめ	○	○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理 科		学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	化 学		担当者	永木 正彦		
使用教材	高等学校 新化学基礎（第一学習社） 高等学校 化学（第一学習社）					
	ネオパルノート 化学基礎(第一学習者)					
	セミナーノート 化学(第一学習社)					
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。					
	2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。					
	3 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。					
学習方法	1 授業前に教科書を読み、重要語句・中学校での既習事項を確認する。					
	2 授業では、板書を写すことにとどまらず、計算過程や式の変形の過程を自分自身で繰り返し、理解を深める。					
	3 問題集を解き、理解度を確認する。小テストごとに復習する。復習なくして、知識や問題を解く力の定着は見込めない。プリントの発展的な問題にも積極的に取り組もう。					
必ず取り組む 最小目標						
実現したいと 思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価 方法	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況 ・小テスト
	A	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている		自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。
	B	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。あるいは、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている		自然の事物・現象から問題を見だしている。または、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わっている。あるいは、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	C	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解していない。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けていない。		自然の事物・現象から問題を見いだせない。見通しをもって観察、実験などを行っていない。得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究していない。		自然の事物・現象に主体的に関わっていない。見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしていない。

年 間 計 画				評 価 の 観 点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
	2	ガイダンス				
4	2	第3節酸化還元反応	①酸化と還元		○	○
	3		②酸化数	○		○
	3		③酸化剤と還元剤(1)	○		○
	4		④酸化剤と還元剤(2)	○		○
5	1	(連休)				
	2		⑤金属のイオン ⑥金属の反応性		○	○
	3		⑦電池 ⑧電気分解	○		○
	4	高体連				
	5	第1節物質の状態変化	①物質の三態とその変化	○		○
6	1		②気体分子の熱運動と圧力	○		○
	2		③飽和水蒸気圧と蒸気圧曲線		○	○
	2	(前期中間考査)				
	3	第2節気体の性質	①気体の法則 ②気体の状態方程式	○		○
	4		③理想気体と実在気体	○		○
7	4	第3節固体の構造	①化学結合と結晶の種類	○		○
	5		②金属結晶の構造 ③イオン結晶の構造	○		○
	1		④共有結合の結晶の構造	○		○
7	1	(学校祭)				
	2		⑤分子結晶の構造 ⑥非晶質	○		○
	3	第4節溶液の性質	①溶解と溶液	○		○
	4					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
9	4		②希薄溶液の性質	○		○
	1		③コロイド		○	○
	2	(後期中間考査)				
	3	第1節化学反応と熱・光	①化学反応とエンタルピー変化		○	○
	4		続き			
10	5		②ヘスの法則	○		○
	1		続き			
	2		③結合エネルギー		○	○
	3		続き			
	4	(見学旅行)				
11	5					
	1		④化学反応と光 ⑤エントロピー	○		○
	2	第2節電池・電気分解	①電池 ②電気分解	○		○
	3		続き			
	4	(後期中間考査)				
12	5		③電気分解の応用		○	○
	1	第3節化学反応の速さ	①反応速度 ②化学反応の速さと濃度 ③温度	○		○
	2	第4節化学平衡	①可逆変化と化学平衡			
	3		②平衡定数	○		○
	4		③平衡移動	○		○
2	5					
	1	(冬季休業)				
	2					
	3					
	4	第5節電離平衡	①電離平衡と電離定数	○		○
2	5		②電離定数とpH		○	○
	1		③塩の性質と反応	○		○
	2		④緩衝液と緩衝作用	○		○
	3		続き			
	4	(後期期末考査)				
2	5		⑤溶解度積			

3	1	(高校入試)			
	2	第1節周期表と元素の性質	①元素の分類と性質	○	○
	3		②化合物の性質と周期表	○	○
	4	第2節非金属元素	①水素 ②18族元素－貴ガス－	○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科	学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	生物	担当者	森 秀 夫		
使用教材	生物(実教出版)				
	アクセスノート生物(実教出版) ※Libry版を購入				
	サイエンスビュー生物(実況出版)				
学習目標	1 生物や生物現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、生物学的に探求する能力と態度を育てる。				
	2 生物や生物現象についての基本的な概念や原理・原則を理解し、科学的な自然観を育成する。				
	3 自然に対する総合的な見方を養う。				
学習方法	1 授業に集中し、板書を書き写すのみならず、説明をよく聞き、内容を理解する。				
	2 小テストや定期考査に向けて、家庭学習に取り組み、基礎知識を固める。				
	3 問題集などでの復習に努め、より多様な観点から、生物の成り立ちや制御のしくみ、行動等を理解する。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	小テスト 定期考査 実験	定期考査 課題プリント		ノート・プリント ペアワーク・グループワーク
	A	生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を身につけているとともに、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を習得している。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができ、生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することができる。		生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。
	B	生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を概ね身につけているとともに、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を概ね習得している。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることが概ねでき、生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することが概ねできる。		生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとして概ねしている。
	C	生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則の理解がなく、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけておらず、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能も習得していない。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができず、生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することもできない。		生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとしていない。

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	オリエンテーション・生物の進化	生命の起源と細胞の進化	○		
	4	生物の進化	生命の起源と細胞の進化	○		
	5	生物の進化	遺伝子の変化と進化のしくみ		○	
5	1	(連休)				
	2	生物の進化	生物の系統と進化	○		
	3	生物の進化	生物の系統と進化	○		
	4	生物の進化	生物の系統と進化	○	○	
	5	生物の進化	生物の系統と進化	○		○
6	1	生物の進化	生物の系統と進化	○		
	2	(前期中間考査)				
	3	生物現象と物質	細胞と分子	○		
	4	生物現象と物質	細胞と分子		○	
	5	生物現象と物質	生命現象とタンパク質	○		
7	1	生物現象と物質	生命現象とタンパク質	○		
	2	(学校祭)				
	3	生物現象と物質	代謝			○
	4	生物現象と物質	代謝	○		
	5					
8	1					
	2	(夏季休業)				
	3					
	4					
9	5	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報とその発現	○		
	1	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報とその発現	○		
	2	(前期期末考査)				
	3	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報とその発現		○	
	4	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報とその発現		○	
10	5	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報とその発現		○	
	1	遺伝情報の発現と発生	発生と遺伝子発現	○		
	2	遺伝情報の発現と発生	発生と遺伝子発現	○		
	3	遺伝情報の発現と発生	発生と遺伝子発現	○		
	4	遺伝情報の発現と発生	発生と遺伝子発現	○		
11	1	遺伝情報の発現と発生	遺伝子を扱う技術		○	○
	2	遺伝情報の発現と発生	遺伝子を扱う技術	○		
	3	(後期中間考査)				
	4	生物の環境応答	動物の反応	○		
12	1	生物の環境応答	動物の反応	○		
	2	生物の環境応答	動物の反応	○		
	3	生物の環境応答	動物の反応	○	○	
	4	生物の環境応答	動物の反応	○	○	
	5					
1	2	(冬季休業)				
	3	生物の環境応答	植物の成長と環境応答			○
	4	生物の環境応答	植物の成長と環境応答	○	○	○
	5	生物の環境応答	植物の成長と環境応答	○		
	2	1	生物と環境	個体群と生物群集		○
2		生物と環境	個体群と生物群集	○	○	
3		(後期期末考査)				
4		生物と環境	生態系	○	○	
3	1	生物と環境	生態系	○		
	2	(高校入試)				
	3	生物と環境	生態系	○	○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	保健体育		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	体育		担当者	市山貴一・加藤武志・豊田裕子・奥 恭平		
使用教材						
学習目標	1 運動の多様性・体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付け、活用する力を養う。					
	2 課題の発見・解決のために思考、判断するとともに、それを他者に伝える力を養う。					
	3 公正・協力・責任・参画などの意欲を育て、生涯にわたり継続的に運動に親しむ資質・能力を養う。					
学習方法	1 積極的に授業に参加し、その種目の知識や技能、そして安全について理解する。					
	2 自己やチームについて課題の発見と解決を目指し、周囲とコミュニケーションをとりながら練習や試合の工夫に取り組む。					
	3 ペアワークやグループワークにより、身体活動と共に、言語活動が活発になるよう積極的に取り組む。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	学期末・学年末の学業成績の評価・評定は学習指導要領の各教科の評価の観点及びその趣旨や特性を踏まえて、観点別評価をし、総合的に判断して行う。 ①評価の主な観点(3観点)は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」とする。					
	②前・後期末の成績は、3観点評価及び5段階評価を行う。					
	③学年末の成績は、その年度分を総合的に評価し、3観点評価及び5段階評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
評価方法	・技能テスト ・ルールテスト ・観察		・ワークシート ・グループ活動の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況	
評価基準については別紙参照						

評価基準		知識	技能	思考・判断	表現	主体性
5	A	①技術・戦術の名称を教えられるレベル ②ルールが教えられる主審レベル	①とても技能が高く、求めた課題ができる ・連携して得点を奪える・守備ができる ・仲間がプレイしやすい技能レベル ②各種目に必要な体力が身についている	①自分、他者、チームの良い点や改善点を発見できる ②課題の解決方法を具体的に言える ③楽しむための方法を見つけることができる ④拍手したくなるプレーをする	①成果や改善点を他者に伝えることができる ②個性豊かユニーク	①自らの意思で積極的かつ正確に動く ②助け合う教え合う ③諦めずに取り組んでいる。
4	A・B	①技術・戦術を理解している ②ルールの理解をしている副審レベル	①技能が高く、求めた課題が形になっている ・各種目の技能を試合で発揮できる ・動きながらプレーできる ②各種目に必要な体力が概ね身についている	①自分の良い点や改善点を発見できる ②良い点や課題を見つけることができる ③良い点や課題を意識して動くことができる ④プレーに関わろうとする意欲が高い	①作戦を話し合うことができる ②一生懸命だが単純 一生懸命ではないがユニーク	①自らの意思で動く ②指示されたことは正確に動く ③積極的に準備・体操 ④安全確保できる ⑤興味関心のあるものの取り組み状況が良好。
3	B	①技術・戦術理解が不十分 ②得点係レベル	・技能はやや劣るが一生懸命で求めた課題は概ねできる ・練習で各種目の技能を発揮できる	①指示されたことに対し課題を達成しようとしている ②流れに合わすことができる。 ③自身の取り組みについて振り返ることができる	①作戦を話し合いに参加できる ②まねる	①指示されたら動く指示通り行動できる。 ②フェアプレー
2	B・C	①技術・戦術理解はほとんどない	①求めた課題ができることもある 基本的な技能が不十分 ②動けない	①指示された課題のみ取り組んでいる ②課題を意識しない。 ③プレー等に関わろうとする意欲が低い	①話し合いに参加できない ②模倣もできない	①人任せ ②指導者が不安になり確認を求める
1	C	①まったく理解していない	①求めた課題ができない。	①考えて取り組んでいない ②課題を見つけることができない。	①取り組み内容不十分	①取り組み内容不十分 ②指示を聞かない。 ③スポーツマンシップに反するプレー

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	オリエンテーション	授業についての説明			○
	4	体づくり運動、体育理論	集団行動、体ほぐしの運動、実生活に生かす運動の計画、器械運動、長距離走			○
	5	体づくり運動、体育理論	各種体ほぐしの運動、実生活に生かす運動の計画、器械運動、長距離走			○
5	1	(連休)				
	2	体づくり運動、新体力テスト	長距離、新体力テスト(外種目)		○	
	3	体育理論			○	
	4	I 期	男子:サッカー 女子:ソフトボール/バスケットボール			○
	5	I 期	〃			○
6	1	(前期中間考査)				
	2	I 期	〃		○	
	3	I 期	〃		○	
	4	I 期	〃	○	○	
7	1	II 期	男子:バスケットボール 女子:ソフトテニス、サッカー			○
	2	(学校祭)				
	3	II 期	〃		○	
	4	II 期	〃		○	○
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	II 期	〃	○	○	
9	1	II 期	〃	○	○	
	2	(前期期末考査)				
	3	体育大会練習			○	○
	4	体育大会練習			○	○
	5	体育理論			○	○
10	1	III 期	バレーボール/ダンス(男女共修)			○
	2	III 期	〃		○	○
	3	III 期	〃	○	○	
	4	III 期	〃		○	○
	5	III 期	〃	○	○	
11	1	体育理論		○		
	2	体づくり運動	長距離走		○	○
	3	新体力テスト	室内種目	○		
	4	(後期中間考査)				
	5	IV 期	バドミントン/卓球(男女共修)		○	
12	1	IV 期	〃		○	○
	2	IV 期	〃		○	
	3	体育理論	スキー授業オリエンテーション	○		○
	4	(冬季休業)				
	5					
1	1					
	2					
	3	スキー授業	スキー学習		○	○
	4	スキー授業	〃			○
	5	スキー授業	〃			○
2	1	スキー授業	〃		○	
	2	(後期期末考査)				
	3					
	4	IV 期	〃	○		
3	1	(高校入試)				
	2	IV 期・体育理論	〃		○	○
	3	IV 期・まとめ	〃			○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	保健体育	学年	2 学年	単位数	1 単位
科目名	保健	担当者	加 藤 武 志		
使用教材	大修館書店 現代高等保健体育(保体701)				
学習目標	1 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、技能を身に付けるようにする。				
	2 健康についての課題を発見し、解決に向け計画的に行動できるような思考・判断できる力を養う。				
	3 健康について、課題の解決を合理的にするため、状況に応じ他者に伝える力を養う。				
	4 生涯を通じて、健康の保持増進や環境づくりを目指し、活力ある生活を営む態度を養う。				
学習方法	1 自分自身の健康管理について理解し、課題発見と解決に向け主体的に取り組む。				
	2 時間毎の口頭質問や、単元毎の小テストを行うことで、理解を深められるよう積極的に取り組む。				
	3 ペアワークやグループワークにより、言語活動が活発になるよう積極的に取り組む。				
必ず取り組む 最小目標					
実現したいと 思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	学期末・学年末の学業成績の評価・評定は学習指導要領の各教科の評価の観点及びその趣旨や特性を踏まえて、観点別評価をし、総合的に判断して行う。 ①評価の主な観点(3観点)は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」とする。 ②前・後期末の成績は、3観点評価及び5段階評価を行う。 ③学年末の成績は、その年度分を総合的に評価し、3観点評価及び5段階評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価 方法	・定期考査, 課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況 ・発表、ペアワーク等		・学習活動への取り組み状況 ・発表、ペアワーク等 ・課題提出状況
	A	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、必要な言語や知識などについて深く理解し、言ったり書いたりすることができる。	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、原則や概念を基に整理したり、自他や社会の課題を発見し、その解決方法や選択した理由などを話し合ったり、記述するなど筋道を立てて説明している。		・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組んでいる。 ・積極的に他者に伝えたり、聴くことができている。
	B	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、必要な言語や知識などについて理解し、言ったり書いたりすることができる。	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、原則や概念を基に整理したり、自他や社会の課題を発見し、その解決方法や選択した理由などを話し合ったり、記述するなど概ね筋道を立てて説明している。		・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、課題の解決に向けた学習に取り組もうとしている。
	C	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、必要な言語や知識などについて理解せず、言ったり書いたりすることができない。	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、原則や概念を基に整理できず、自他や社会の課題を発見したり、その解決方法や選択した理由などを話し合ったり、記述するなど筋道を立てて説明できない。		・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、課題の解決に向けた学習に取り組もうとしていない。

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(始業式・入学式)				
	3	オリエンテーション	授業についての説明			○
	4	ライフステージと健康	健康との関連について		○	
	5	ライフステージと健康	社会からの支援について	○		
5	1	(連休)				
	2	思春期と健康	思春期における体の変化と健康課題	○		
	3	性意識と性行動の選択	男女差について		○	
	4	性意識と性行動の選択	性行動の選択について	○		
	5	妊娠・出産と健康	健康課題について		○	
6	1	(前期中間考査)				
	2	妊娠・出産と健康	母子保健サービスについて	○		
	3	避妊法と人工妊娠中絶	適切な避妊法について		○	
	4	避妊法と人工妊娠中絶	心身に及ぼす影響について	○		○
	5	結婚生活と健康	心身の発達と結婚生活の関係について	○		
7	1	中高年期と健康	心身の変化について	○		
	2	(学校祭)				
	3	働くことと健康	健康とのかかわりについて	○		○
	4	働くことと健康	意義と健康とのかかわりについて	○		
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	労働災害と健康	種類と原因について	○		
9	1	健康的な職業生活	健康に関する取り組みについて	○		
	2	(前期期末考査)				
	3	大気汚染と健康	健康への影響について		○	
	4	大気汚染と健康	地球規模の健康問題について	○		
	5	水質汚濁、土壌汚染と健康	原因と健康影響について		○	
10	1	水質汚濁、土壌汚染と健康	環境汚染の発生のしくみについて	○		
	2	環境と健康にかかわる対策	健康被害を防ぐ方法について	○		
	3	ごみの処理と上下水道の整備	現状やその課題について	○		
	4	食品の安全性	安全性と健康とのかかわりについて		○	
11	2	食品の安全性	今日的課題について		○	
	3	食品衛生にかかわる活動	個人の役割について			○
	4	(後期中間考査)				
	5	保健サービスとその活用	保健行政の役割について			○
12	2	保健サービスとその活用	サービスの活用例について		○	
	3	医療サービスとその活用	医療保険のしくみについて		○	
	4	(冬季休業)				
	5					
1	1					
	2					
	3	医療サービスとその活用	医療機関の役割について		○	
	4	医薬品の制度とその活用	正しい使用法について	○		
2	5	さまざまな保健活動や社会的対策	保健活動について		○	
	1	さまざまな保健活動や社会的対策	社会的対策について	○		
	2	(後期期末考査)				
	3					
3	4	健康に関する環境づくりと社会参	健康の保持増進のための環境づくりについて		○	
	1	(高校入試)				
3	2			○		
	2	まとめ	保健全体を通した振り返り			

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	芸術		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	音楽Ⅱ		担当者	辻 正博		
使用教材	高校生の音楽 2(教育芸術社)					
	改訂 音楽通論					
	各楽器ごとの楽譜					
学習目標	1 様々な音楽を理論も含めて総合的に学習することによって、生涯にわたって音楽を愛好しようとする心情を育てます。					
	2 器楽などの表現する活動や音楽を鑑賞する活動を通して、自己を表現する力や音楽の良さを感じ取る力を伸ばします。					
	3 我が国や諸外国の音楽の学習を通して、世界の音楽芸術・文化の良さを認め合う心情を育てます。					
	4					
学習方法	1 主に器楽演奏を中心に実技・実習を行います。(楽器の選択肢は限られます)					
	2 自主的に課題を見つけ解決していくことと、練習に集中する忍耐力が必要です。					
	3 機会を捉えて、様々な音楽に関わるDVDの鑑賞を行います。					
必ず取り組む最小目標	楽典・器楽演奏(独奏・アンサンブル)・演奏発表会					
実現したいと思う最大目標	学習内容の定着、各楽器の奏法等の習熟・個々の演奏に取り組む楽曲に対する理解					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	筆記試験や実技試験、発表会を通してこれまで学んできた成果を評価します。		筆記試験や実技試験、発表会を通してこれまで学んできた成果を評価します。		授業中における取組状況や態度、課題提出状況などにより評価します。
	A	楽譜・楽典について深く理解した。 音楽史・作品・背景などを深く理解した。 歌唱・器楽演奏能力が著しく向上した。		題材に対して深く考えた。 歴史や背景をよく理解した。 演奏する曲(楽譜)に対して深く理解し、演奏の表現に十分つなげることができた。		深く楽しんでできた。 広く協力しておこなった。 より集中してできた。
	B	楽譜・楽典について理解した。 音楽史・作品・背景などを理解した。 歌唱・器楽演奏能力が向上した。		題材に対してよく考えた。 歴史や背景を理解した。 演奏する曲(楽譜)に対して理解し、演奏の表現につなげることができた。		楽しんでできた。 協力しておこなった。 集中してできた。
	C	楽譜・楽典について理解しなかった。 音楽史・作品・背景などを理解しなかった。 歌唱・器楽演奏能力が向上しなかった。		題材に対してよく考えなかった。 歴史や背景からの理解しなかった。 演奏する曲(楽譜)に対して理解が深まらず、演奏の表現に至らなかった。		楽しくなかった。 協力しなかった。 集中できなかった。

年 間 計 画(変更する可能性もあります)				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	オリエンテーション	授業のルール徹底、1年次の復習(楽典)	○	○	○
	4	楽典・ソルフェージュ・歌唱	音楽理論・聴音・校歌	○	○	○
	5	楽典・ソルフェージュ・歌唱	音楽理論・聴音・校歌	○	○	○
5	1	(連休)				
	2	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○
	3	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○
	4	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○
	5	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○
6	1	(前期中間考査)				
	2	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○
	3	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○
	4	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○
7	1	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○
	2	(学校祭)				
	3	器楽演習	アルトリコーダー	○	○	○
	4	器楽演習	アルトリコーダー	○	○	○
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	器楽演習	アルトリコーダー	○	○	○
9	1	器楽演習	リコーダーアンサンブル	○	○	○
	2	(前期期末考査)				
	3	器楽演習	リコーダーアンサンブル	○	○	○
	4	器楽演習	リコーダーアンサンブル	○	○	○
	5	器楽演習	リコーダーアンサンブル	○	○	○
10	1	器楽演習	クラシックギター	○	○	○
	2	器楽演習	クラシックギター	○	○	○
	3	器楽演習	クラシックギター	○	○	○
	4	器楽演習	クラシックギター	○	○	○
	5	器楽演習	クラシックギター	○	○	○
11	1	鑑賞	アマデウス	○	○	○
	2	鑑賞	アマデウス	○	○	○
	3	鑑賞	アマデウス	○	○	○
	4	(後期中間考査)				
	5	鑑賞	アマデウス	○	○	○
12	1	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○
	2	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○
	3	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○
	4					
	5	(冬季休業)				
1	1					
	2					
	3	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○
	4	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○
	5	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○
2	1	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○
	2	(後期期末考査)				
	3					
	4	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○
3	1	(高校入試)				
	2	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○
	3	演奏発表会	これまでの練習の成果を演奏会形式で発表	○	○	○

令和 7 年度(2025 年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	外国語	学年	2 学年	単位数	3 単位
科目名	英語コミュニケーションⅡ	担当者	堀田 裕二		
使用教材	Grove English CommunicationⅡ (文英堂)				
	教科書ワークブック、e-learning				
学習目標	1 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話しの展開や 話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。				
	2 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や 書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。				
	3 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の文で詳しく話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え 合ったりすることができる。				
	4 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考 え、気持ちなどを論理性に注意して複数の文で詳しく話して伝えることができる。				
	5 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考 え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができる。				
学習方法	予習 ①大まかな意味を把握することを意識して読む ②単語の意味を調べ自分なりに訳す ③音読				
	授業①予習したことを答え合わせする意識で説明を聞く ②ペア・グループ等での活動 ③ワークシートに取り組む ④学習した表現を参考にして自分の意見を表現 ⑤音読				
	復習①学習した内容を振り返る ②語句・文法問題を反復練習 ③教科書本文の内容に関する質問や、自分自身の意見について、学習した表現をもとにして自分の言葉で表現できるよう反復練習				
必ず取り組む 最小目標	・教科書本文で扱っている内容について、何が書かれているのか日本語で理解する。 ・プリント、ワークで問題形式となっているものを終える。				
実現したい と思う 最大目標	・各レッスンで扱ったテーマについて、学習した語句や文法を使って意見交換する。 ・各レッスンで扱ったテーマについて、外国人と意見交換する。				

評価の 方法 及 び 評価 基準 ループ リック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、C で評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。			
	観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	評 価 方 法	・定期考査 ・小テスト ・課題テスト	・定期考査 ・小テスト ・課題テスト	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を身に付けている。 (80%程度以上の達成状況)	日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や 考えなどの概念や要点、詳細、話し 手や書き手の意図などを的確に理 解したり、コミュニケーションを行う目 的や場面、状況などに応じて論理的 に注意して表現したり伝え合ったり する力を身に付けている。 (80%程度以上の達成状況)	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し 手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとしたり伝え合おうとしたりする 態度を身に付けている。 課題の取組・提出状況が十分である。 (80%程度以上の達成状況)
	B	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を概ね身に付 けている。 (30～79%程度の達成状況)	日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や 考えなどの概念や要点、詳細、話し 手や書き手の意図などを的確に理 解したり、コミュニケーションを行う目 的や場面、状況などに応じて論理的 に注意して表現したり伝え合ったり する力を概ね身に付けている。(30～79%程度の達成状況)	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し 手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとしたり伝え合おうとしたりする 態度を概ね身に付けている。 課題の取組・提出状況が十分でないものの改善されている。 (30～79%程度の達成状況)
	C	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を身に付けて いない。 (29%程度以下の達成状況)	日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や 考えなどの概念や要点、詳細、話し 手や書き手の意図などを的確に理 解したり、コミュニケーションを行う目 的や場面、状況などに応じて論理的 に注意して表現したり伝え合ったり する力を身に付けていない。(29%程度以下の達成状況)	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し 手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとしたり伝え合おうとしたりする 態度を身に付けていない。 課題の取組・提出状況が不十分で改善もされていない。 (29%程度以下の達成状況)

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	取 り 組 む 態 度 主 体 的 に 学 習 に
4	2	(入学式)				
	3	L1 Breakfast Around the World	・国や地域で違う朝食について、理解する。	○		
	4	〃	・朝食の背景にある食文化や食習慣の違いについて、理解する。		○	
	5	〃	・世界の朝食や食文化・食習慣について、意見交換したり発表したりする。			○
5	1	(連休)				
	2	〃	「S+V」「S+V+C」「S+V+O+O」「S+V+O+C」の表現を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	○	○	○
	3	L2 What Makes You a Good Street Dancer?	・ストリートダンスについて知る。	○		
	4	〃	・優れたストリートダンサーになるための要素について、理解する。		○	
	5	〃	・ストリートダンスとその上達ポイントなどについて、意見交換したり発表したりする。			○
6	1	(前期中間考査)				
	2	〃	・完了形、進行形、完了進行形の表現を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	○	○	○
	3	L3 Volunteering and Music Bring Us Together	・若者をボランティアに参加させるロックコープスの活動について知る。	○		
	4	〃	・ボランティア参加者の意識について理解する。		○	
7	1	〃	・ロックコープスの活動やボランティアについて、意見を交換したり、発表したりする。			○
	2	(学校祭)				
	3	〃	・助動詞、助動詞+完了形、to+不定詞の用法の表現を理解して、聞いたり、書いたり、読んだり、話したりする。	○	○	○
	4					
	5	(夏季休業)				
8	1					
	2					
	3					
	4					
	5		復習			
9	1					
	2	(前期期末考査)				
	3	Lesson4 Zoos - Roles and Challenges	・動物園の役割について知る。	○		
	4	〃	・動物園の役割と取り組みについて理解する。		○	
	5	〃	・動物園の役割と課題や取り組みについて、意見を交換したり、発表したりする。			○
10	1	〃	・受け身、S+V+O+O および S+V+O+C の受け身、助動詞を含む受け身、進行形の受け身の表現を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	○	○	○
	2	Lesson5 Paper Can Change the Future				
	3		・紙の消費が必ずしも森林破壊につながらないことを知る。	○		
	4	〃	・紙の新たな活用場について、ついて理解する。		○	
	5	〃	・紙の多様性と生産の増加、環境への取り組みや新たな活用場について、意見を交換したり、発表したりする。			○
11	1	〃	・分詞の形容詞的用法、S+V+O(that 節)、S+V+C(that 節)の表現を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	○	○	○

	2		復習				
	3						
	4	(後期中間考査)					
	5	L6 Our Advanced Network Society					
12	1	〃	ネットワーク社会の利便性と危険性について知る。	○			
	2	〃	・先端技術の進化によってひらかれる未来について理解する。		○		
	3	〃	・ネットワーク社会の危険性と技術革新でひらかれる未来について、意見を交換したり、発表したりする。			○	
	4	(冬季休業)					
	5						
1	1						
	2						
	3				・S+V+O+C(to 不定詞・分詞・原形不定詞)、S+V+C(seem、appear など)の表現を理解して、聞いたり、読んだり、話したりする。	○	○
	4	Lesson7 Connecting with People	・社会的なつながりが人に与える影響について知る。		○		
	5		・社会的なつながりを支援する取り組みについて理解する。			○	
2	1		・社会的なつながりが人に与える影響とそれを支援する取り組みについて、意見を交換したり、発表したりする。			○	
	2	(後期期末考査)					
	3						
	4	復習					
3	1	(高校入試期間)					
	2	復習					
	3	1年間のまとめ					

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	外国語		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	論理・表現 I		担当者	古市 淳史		
使用教材	Vision Quest English Logic and Expression I					
	E-learning 「中級英語・前編」(文法)／「スタンダード英単熟語」(英和)					
	AI ICTテストPro		AI Writingテスト Pro			
学習目標	・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、発表することができる。					
	・英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら話すことができる。					
	・事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。					
	・事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどの要点や詳細をとらえること					
	・説明や物語などを読んで、情報や考えなどの概要をとらえることができる。					
	・事実と意見などを区別して読むことができる。					
	・説明や物語などを、聞き手に伝わるように音読することができる。					
	・内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読むことができる。					
	・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔な文章を書くことができる。					
	・内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら書くことができる。					
学習方法	1 予習:E-learningで文法学習をする 授業:表現活動 復習:表現をさらに深める					
	2 各課のUse itに取り組み、Writing能力を高める					
	3 パフォーマンステストにて、英語のやりとりができるようにする。					
必ず取り組む最小目標	E-learningを利用して、ライティング能力を高める。					
実現したいと思う最大目標	毎日英語学習に取り組み、身近な事柄を英語で表現できるようにする。 英語検定の上位級(準2級・2級)に合格する。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	定期テスト 単語テスト		定期テスト E-learning作文 パフォーマンステスト		E-learning パフォーマンステスト
	A	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。 得点率80%以上		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。 得点率80%以上		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。 得点率80%以上 提出物完全提出
	B	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を概ね身に付けている。 得点率50%～79%		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を概ね身に付けている。 得点率50%～79%		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を概ね身に付けている。 得点率50%～79%
	C	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けていない。 得点率49%以下		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けていない。 得点率49%以下		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けていない。 得点率49%以下

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	Lesson 1	・初対面で行われる会話	○		
	4	I want to introduce my new friend	文の種類		○	○
	5		・学校のルールについての作文	○		○
5	1	(連休)				
	2	Lesson 2	・学校生活についての会話		○	○
	3	Do you want to join our show?	文型と動詞			
	4		・文型を考えて英作文できるようにする	○		
	5				○	○
6	2	(前期中間考査)				
	3	Lesson3	・旅行や観光の計画などの会話		○	○
	4	I'm planning a day trip this weekend	時制	○		
	5		・過去の旅行についての英作文		○	○
7	1					○
	2	(学校祭)				
	3	Lesson4	・興味関心のあることについての会話	○		○
	4	Have you ever tried it before?	・経験を尋ねる		○	○
	5					
8	1					
	2	(夏季休業)				
	3					
	4					
	5	Lesson4	完了形	○		
9	1	Have you ever tried it before?			○	
	2	(前期期末考査)				
	3	Lesson5	・将来についての会話	○		
	4	What do you want to do after school?	・進路について、英語で表現する			
	5		助動詞		○	○
10	1			○	○	
	2	Lesson6	・最近買ったものについての作文		○	○
	3	Did you hear about the new shop?	・日常生活の会話	○		○
	4		受動態		○	○
	5	見学旅行				
11	1	Lesson7	・誕生日会を舞台にした会話	○		
	2	I'm happy to have you with us	・贈り物についての作文		○	○
	3		不定詞			○
	4	(後期中間考査)				
	5	Lesson8	・スポーツの話題	○		
12	1	What sport do you like playing?	・スポーツをすることに対する利点についての作文		○	○
	2		動名詞	○		○
	3				○	○
	4					
	5	(冬季休業)				
1	1					
	2					
	3	Lesson9	・留学生とのやりとり	○		
	4	Digital media has come a long way	・家族や友達との写真を説明する		○	○
	5	Lesson10	・異文化についての会話	○		
2	1	This is why I decided to go back	・日本文化を説明する		○	○
	2	(後期期末考査)				
	3					
	4	Lesson11	・フェアトレードについて	○		
3	1	(高校入試)				
	2	Which do you prefer, cheaper	・本と映画のどちらに興味があるか		○	
	3	beans or more expensive ones?	・フェアトレードについての意見		○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	英語	学年	2 学年	単位数	2単位
科目名	英語研究	担当者	堀田 裕二		
使用教材	・A Wonderful World HOKKAIDO new edition ・ICT教材 Brains e-learning				
学習目標	1 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。				
	2 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。				
	3 情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的なコミュニケーション能力を養う。				
	4				
学習方法	1 北海道についての説明文を英語で理解する。				
	2 身近なテーマを決めて、探究し、英語で発表できるようにする。				
	3 発表された内容について、共有し、英語でのやり取りができるようにする。				
必ず取り組む 最小目標	身近なテーマを定めて、英語での発表をする。				
実現したいと思う 最大目標	身近なテーマから、世界的な問題に繋げて、自分の言語能力を高め、ネット上で海外の人と交流を図る。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観 点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評 価 方 法	確認テスト 定期考査	ライティング プレゼンテーション 探究発表		探究活動 提出課題
	A	80%以上の点数	ライティングにおいて、論理的に分かりやすく書かれている。 プレゼンテーションにおいて、論理的に分かりやすく発表することができる。		積極的に探究するとともに、発表活動に向けて努力し、それを表現している。 課題の提出状況が良好である。
	B	50～79%の点数	ライティングにおいて、多少間違いはあるが、内容は伝わる。 プレゼンテーション・探究発表において、多少の間違いはあるが、内容が伝わる。		探究活動に対する取り組みに不十分な点はあるが、発表活動を行うことができる。 課題の提出状況が十分とはいえないが努力、改善が見られる。
	C	49%以下の点数	ライティングにおいて、間違いが多すぎて、内容が伝わらない。 プレゼンテーション・探究発表において、支離滅裂で全く伝わらない。		探究活動に対する取り組みが不十分で、発表できない内容がない。 課題の提出状況が悪い。

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	テキスト1&2	北海道についての読解	○		○
	4	探究1	自己紹介 スライド作成		○	○
	5	探究1	自己紹介 スライド作成		○	○
5	1	(連休)				
	2	発表1	自己紹介発表	○	○	○
	3	テキスト3&4	北海道についての読解	○		
	4	探究2	出身地紹介 スライド作成		○	○
	5	探究2	出身地紹介 スライド作成		○	○
6	2	(前期中間考査)				
	3	発表2	出身地紹介 発表		○	○
	4	テキスト5&6	北海道についての読解	○		
	5	探究3	芽室高校紹介 スライド作成		○	○
	7	探究3	芽室高校紹介 スライド作成		○	○
7	2	(学校祭)				
	3	探究3	芽室高校紹介 スライド作成		○	○
	4	発表3	芽室高校紹介 発表		○	○
	5	(夏季休業)				
	1					
	2					
8	3					
	4					
	5	テキスト7&8	北海道についての読解	○		
	1	探究4	海外の国についての紹介 スライド作成		○	○
	2	(前期期末考査)				
9	3	探究4	海外の国についての紹介 スライド作成		○	○
	4	発表4	海外の国についての紹介 発表		○	○
	5	テキスト9&10	北海道についての読解	○		

1 0	1	探究5	SDGsについてのスライド作成		○	○
	2	探究5	SDGsについてのスライド作成		○	○
	3	探究5	SDGsについてのスライド作成		○	○
	4	発表5	SDGsについての発表(1)		○	○
	5	テキスト11&12	北海道についての読解	○		
1 1	1	探究6	SDGsについてのスライド作成		○	○
	2	探究6	SDGsについてのスライド作成		○	○
	3	発表6	SDGsについての発表(2)		○	○
	4	(後期中間考査)				
	5	テキスト13	北海道についての読解	○		
1 2	1	探究7	十勝の問題や魅力についてのスライド作成		○	○
	2	探究7	十勝の問題や魅力についてのスライド作成		○	○
	3	探究7	十勝の問題や魅力についてのスライド作成		○	○
	4	(冬季休業)				
	5					
1	1					
	2					
	3	探究7	十勝の問題や魅力についてのスライド作成		○	○
	4	探究7	十勝の問題や魅力についてのスライド作成		○	○
	5	探究7	十勝の問題や魅力についてのスライド作成		○	○
2	1	発表7	十勝の問題や魅力についての発表		○	○
	2	(後期期末考査)				
	3					
	4	探究8	自分で設定したテーマについて発表	○	○	○
3	1	(高校入試)				
	2	探究9	自分で設定したテーマについて発表	○	○	○
	3	1年間の探究振り返り				○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画						
教科名	家庭科		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	家庭基礎		担当者	小林 郁美		
使用教材	教科書「家基705家庭基礎 気づく力築く未来」					
	資料集「生活ハンドブック」					
学習目標	1 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。					
	2 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。					
	3 さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。					
	4					
学習方法	1 教科書、資料集、ワークシート、タブレットを使用し、教室で授業、グループワークなどを行う。					
	2 食生活については、学んだ内容をもとに調理室において調理実習を行う。					
	3 衣生活など必要に応じて、被服室においてモニターや教材を使用しグループワークを行う。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	★定期考査 ワークシート 実習		定期考査 ワークシート ★実習		定期考査 ★ワークシート 実習
	A	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身に付けている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を記述できる。		さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
	B	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについておおむね理解している。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を考えて記述できる。		さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
	C	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解が不十分である。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題をまとめることができない。		さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践できることを考えさせる。

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	オリエンテーション	家庭科を学ぶにあたって			○
	4		SDGsと家庭科	○	○	○
	5	これからの人生について考えよう	自分の未来予想図を書こう		○	○
5	1	(連休)				
	2	自分らしい生き方と家族	自立と共生	○		○
	3		ライフキャリア	○		○
	4	食生活をつくる	日本の食文化の形成	○		○
	5		私たちの食生活	○		○
6	1	(前期中間考査)				
	2		栄養と食品の関わり	○		○
	3		〃	○		○
	4		〃	○		○
7	1		〃	○		○
	2	(学校祭)				
	3		食事の計画と調理	○	○	○
	4		これからの食生活を考える		○	
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	衣生活をつくる	衣服の選択から管理まで	○	○	○
9	1		持続可能な衣生活をつくる		○	○
	2	(前期期末考査)		○		
	3		衣服の構造・デザイン		○	○
	4		〃		○	○
	5		〃		○	○
10	1	消費行動を考える	消費行動と意思決定	○		○
	2		消費者の現状と課題	○		○
	3	経済的に自立する	暮らしと経済	○		○
	4		将来のライフプランニング	○		○
	5	生活設計		○	○	
11	1	高齢者と関わる	高齢社会に生きる			
	2		高齢者を知る			
	3		高齢者の自立を考える			
	4	(後期中間考査)				
	5	社会とかかわる	支え合って生きる	○	○	○
12	1		共生社会を生きる	○		○
	2	住生活をつくる	住まいを計画する	○		○
	3		安全な住まい	○		○
	4					
	5	(冬季休業)				
1	1					
	2					
	3		持続可能な住まいづくり		○	○
	4	子どもとかかわる	子どもとは	○		
2	5		子どもの発達	○		
	1		子どもの生活	○		
	2	(後期期末考査)		○		
	3			○		
3	4		調理実習		○	○
	1	(高校入試)				
	2		調理実習		○	○
	3		調理実習		○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	家庭科		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	フードデザイン		担当者	小林 郁美		
使用教材	教科書「フードデザイン」(実教出版)					
	資料集「生活ハンドブック」(第一学習社)					
学習目標	1	栄養, 食品, 献立, 調理, テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに, 関連する技術を身に付けるようにする。				
	2	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し, 食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。				
	3	食生活の充実向上を目指して自ら学び, 食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
	4					
学習方法	1	教科書、資料集、ワークシート、タブレットを使用し、教室で授業、グループワークなどを行う。				
	2	学んだ内容をもとに調理室において調理実習を行う。				
	3	学んだ内容をもとに、校内校外において探究活動を行う。				
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	★定期考査 ワークシート 実習		定期考査 ワークシート ★実習		定期考査 ★ワークシート 実習
	A	栄養, 食品, 献立, 調理, テーブルコーディネートなど, フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解を深め, 実践できる技術を習得している。		多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め, 食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに, 家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって, 課題を解決する力がある。		人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために, 進んで学ぶ姿勢を持ちつつ, 食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて, 主体的に計画・実践することができる。また, 習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより, 食育の推進に他と協働して取り組むことができる。
	B	栄養, 食品, 献立, 調理, テーブルコーディネートなど, フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し, 実践できる技術を習得している。		多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め, 食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに, 家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって, 課題を解決しようとしている。		人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために, 進んで学ぶ姿勢を持ちつつ, 食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて, 主体的に計画・実践しようとしている。また, 習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより, 食育の推進に他と協働して取り組もうとしている。
	C	栄養, 食品, 献立, 調理, テーブルコーディネートなど, フードデザインに必要な要素を相互に関連付けての理解が不十分で, 実践できる技術の習得が不十分である。		多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め, 食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに, 家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって, 課題解決が不十分である。		人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために, 進んで学ぶ姿勢を持ちつつ, 食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて, 主体的に計画・実践することが不十分である。また, 習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用し, 食育の推進に他と協働して取り組むことが不十分である。

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	オリエンテーション	フードデザインの内容			○
	4	食生活と健康	食文化	○		
	5		現代の食生活の課題		○	
5	1	(連休)				
	2	調理の基本	調理の目的	○		
	3		食べ物のおいしさ	○		
	4	食品の特徴	牛乳・乳製品	○		
	5		牛乳・乳製品利用料理コンクール		○	○
6	1	(前期中間考査)				
	2		小麦 高校生チャレンジグルメコンテスト	○		○
	3		〃		○	
	4		砂糖	○		
7	1		〃		○	
	2	(学校祭)				
	3		どうもろこし	○		
	4		〃		○	
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5		〃	○		
9	1		〃		○	
	2	(前期期末考査)				
	3		いも類	○		
	4		〃		○	
	5		〃			○
10	1		豆類	○		
	2		〃		○	
	3		〃			○
	4		種実類(めむろピーナッツ)	○		
	5				○	
11	1		〃			○
	2	献立作成	行事食(クリスマス)	○		
	3		〃		○	
	4	(後期中間考査)				
	5		供応食(お弁当)	○		
12	1		〃		○	
	2		供応食(災害食)	○		
	3		〃		○	
	4	(冬季休業)				
	5					
1	1					
	2					
	3		一人暮らしの食事	○		
	4		〃		○	
	5		〃			○
2	1		〃	○		
	2	(後期期末考査)				
	3					
	4	食育	食育の意義と課題			
3	1	(高校入試)		○		
	2		〃		○	
	3		〃			○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	商 業		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	情報処理		担当者	横田 たき子		
使用教材	情報処理(実教出版)					
	情報処理技能検定試験 表計算2・準2級 問題集					
学習目標	1	実社会で利用されている情報の意義や役割を理解して、自らも積極的に活用する態度を身に付ける。				
	2	ビジネスの諸活動で使用されている文書や書類の種類と形式を理解し、適切な文書が作成できるようにする。				
	3	実習の中で、効率の良い作業方法を探求し、また常に正確な処理を心掛ける姿勢を身に付ける。				
学習方法	1	自分の理解を補うために、積極的にメモをとりながら授業を受けましょう。				
	2	授業中に行う実技課題について、授業で仕上げられない場合には昼休みや放課後の時間を使い、締め切りの期日を守って完成させること。				
	3	毎時間の授業を大切にし、復習課題は期限を守ってしっかりと取り組みましょう。				
必ず取り組む最小目標	課題は丁寧に取り組む。日検情報処理検定準2級取得する。					
実現したいと思う最大目標	授業で得た知識と技術を生かして情報を適切に扱い、作業を正確、効率的に行いながら、わかりやすい文書作成のために改善していく姿勢を身につける。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・課題 ・小テスト		・課題 ・小テスト ・取り組み記録		・課題 ・小テスト ・取り組み記録
	A	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、情報を適切に扱うことに主体的に取り組み、評価・改善している。
	B	企業において情報を扱うことについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術をおおむね身に付けている。		企業において情報を扱うことに関して理解し、ビジネスに携わる者として課題を解決しようとしている		自ら学び、情報を適切に扱うことに主体的に取り組もうとしている。また、自己の技術向上のために自ら改善しようとしている。
	C	企業において情報を扱うことについての知識と、関連する技術を身につけていない。		企業において情報を扱うことに関して思考していない。また、ビジネスに携わる者として課題の解決に取り組もうしていない。		自ら学ぼうとせず、自己の技術向上のための改善をしようとしていない。

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	タッチタイピング	タッチタイピングの基本	○	○	○
	4		基本練習 ホームポジション、応用練習 効率の良い変換	○	○	○
	5			○	○	○
5	1	(連休)				
	2	ビジネス文書の作成	速度練習、ビジネス文書と表現	○	○	○
	3		基本文書の作成、文書作成練習	○	○	○
	4	ワープロ検定に向けて	3級文書作成	○	○	○
	5		↓	○	○	○
6	2	(前期中間考査)				
	3		準2級文書作成	○	○	○
	4		検定級別練習	○	○	○
	5		↓ ワープロ検定	○	○	○
7	1	情報処理検定に向けて(3級)	関数の利用 判断文、絶対参照、端数処理関数、構成比率の計算	○	○	○
	2	(学校祭)				
	3		↓ 情報処理検定	○	○	○
	4		↓	○	○	○
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	情報処理検定に向けて(準2級)	表検索、多重判断文、理論演算子	○	○	○
9	1		↓	○	○	○
	2	(前期期末考査)				
	3		関数を利用した表の作成・グラフの作成	○	○	○
	4		情報処理検定準2級課題	○	○	○
	5		↓	○	○	○
10	1		ワープロ検定・情報処理検定級別練習	○	○	○
	2		↓	○	○	○
	3		↓ ワープロ検定・情報処理検定	○	○	○
	4	情報処理検定に向けて(2級)	表検索の応用	○	○	○
	5		多重判断文の応用	○	○	○
11	1		時刻の計算	○	○	○
	2		関数を利用した表の作成・多様なグラフの作成	○	○	○
	3		↓	○	○	○
	4	(後期中間考査)				
	5		情報処理検定2級課題演習	○	○	○
12	1		↓	○	○	○
	2		↓	○	○	○
	3		↓	○	○	○
	4					
	5	(冬季休業)				
1	1					
	2					
	3		ワープロ検定・情報処理検定級別練習	○	○	○
	4		↓	○	○	○
	5			○	○	○
2	1			○	○	○
	2					
	3	(後期期末考査)				
	4		↓ ワープロ検定・情報処理検定	○	○	○
3	1	(高校入試)				
	2		応用的な関数の利用(文字列操作、行列の検索)	○	○	○
	3		応用的な関数の利用(表示形式の変更と文字列の検索、日付の抽出)	○	○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	商 業		学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	簿記		担当者	横田 たき子		
使用教材	高校簿記					
	スピードマスター精選簿記演習					
	全経簿記検定試験PAST 3級(9月から使用予定)					
	完全分類全経2級商簿(11月後半から使用)					
学習目標	1	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。				
	2	(2)取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。				
	3	(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
学習方法	1	自分の理解を補うために、メモを取るなどしながら積極的な態度で授業を受けましょう。				
	2	小テストで理解度と学習成果を確認します。学習方法を見直し、改善を繰り返しましょう。				
	3	復習(問題練習)が欠かせない科目です。自分で判断しながら、しっかり取り組みましょう。				
必ず取り組む 最小目標	課題は丁寧に取り組む。 全経簿記検定3級を取得に向けて努力する。					
実現したいと 思う最大目標	実務社会でも通用するよう、簿記会計の全体構造を理解する。簿記会計の学習から、企業の経済活動の理解を深める。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価 方法	・定期考査 ・課題 ・小テスト		・定期考査 ・課題 ・小テスト		・課題 ・小テスト
	A	簿記を体系的に理解して取引を正確に記録することができ、決算書を作成するために必要な知識・能力が身についている。また、簿記の理論が実務の場面に即した理解となって身についている。		取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と実務に適用することにもなう課題を見いだすとともに、工夫してよりよく課題に対応する力が身についている。		簿記について、みずから学ぶ姿勢をもち、学習法を改善しながら適正な取引の記録と財務諸表の作成法を身につけ、積極的に取り組む態度が身についている。
	B	簿記の取引を適切に記録・処理する知識と技能がおおむね身についている。		取引の記録と財務諸表の作成の方法としくみを理解し、正確でわかりやすい業務のために、処理方法をより良く工夫することができる。		簿記について、目標を持って学習し、小テストなどをとおして自らの学習法を振り返り、改善しようとしている。
	C	各帳簿の役割や取引を適切に処理する知識が身についていない。		取引の記録と財務諸表の作成に関し、見やすく正確な処理に努めようとしない。		簿記の学習に対して目標を持たず、学習法の振り返りや改善をしようとしない。

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 組 む 態 度
4	2					
	3	簿記の要素	資産・負債・純資産と貸借対照表	○	○	○
	4		収益・費用と損益計算書	○	○	○
	5	取引と勘定	取引、勘定、仕訳と転記	○	○	○
5	1		(連休)			
	2	現金・預金の記帳	現金・預金などの取引、小口現金の仕訳	○	○	○
	3		現金出納帳、現金過不足	○	○	○
	4		当座預金、当座預金出納帳	○	○	○
	5	商品売買の記帳	仕入取引と仕入帳	○	○	○
6	1		売上取引と売上帳	○	○	○
	2		(前期中間考査)	○		
	3		商品有高帳	○	○	○
	4	掛け取引の記帳	売掛金・買掛金	○	○	○
	5	手形取引の記帳	受取手形・支払手形	○	○	○
7	1	その他の債権・債務の記帳	貸付金・借入金(手形貸付金・手形借入金)	○	○	○
	2		(学校祭)			
	3		前払金・前受金、未収金・未払金	○	○	○
	4		立替金・預り金、仮払金・仮受金、商品券	○	○	○
	5					
8	1		(夏季休業)			
	2					
	3		(夏休み明けテスト)			
	4	有価証券とその他の手形取引の記帳	有価証券	○	○	○
	5	固定資産の記帳	固定資産	○	○	○
9	2		(前期期末考査)	○		
	3	資本金の記帳	個人企業の資本、税金・その他の税金	○	○	○
	4		貸し倒れと貸倒引当金、株式会社の資本金	○	○	○
	5	決算①	決算整理、8桁精算表	○	○	○
10	1		決算演習	○	○	○
	2		〃	○	○	○
	3	簿記検定3級受検に向けて	大問別復習	○	○	○
	4		〃	○	○	○
11	1		過去問演習	○	○	○
	2		〃	○	○	○
	3		〃	○	○	○
	4		(後期中間考査) 全経簿記検定	○		
12	1	帳簿・伝票と記帳の効率化	会計帳簿	○	○	○
	2	決算②	決算整理	○	○	○
	3		帳簿決算	○	○	○
	4		〃	○	○	○
	5		(冬季休業)			
1	2					
	3		(冬休み明けテスト)			
	4	株式会社の記帳	設立と開業の記帳、剰余金の処分に関する記帳	○		○
2	5		株式会社の税金の記帳	○		○
	1	簿記検定2級受検に向けて	大問別演習	○	○	○
	2		〃	○	○	○
	3		〃	○	○	○
3	4		(後期期末考査)			
	1	簿記の総復習	記帳練習	○	○	○
	2		(高校入試)			
	3		記帳練習	○	○	○